

発行所

札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX (011) 706-5007
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum-w/

編集人 田中 伸哉
発行人 浅香 正博

北大医学部同窓会新聞



CONTENTS

- (1) 医学研究科長・医学部長
再任のご挨拶……………笠原 正典
・新入会員を歓迎して……………浅香 正博
- (2) 平成26年度総会報告及び新入会員歓迎会報告
・平成26年度総会資料
- (3) 新入会員挨拶……………深瀬 理沙
・第91期生名簿
・教授退任挨拶……………藤田 博美
- (4) 平成27年4月入学者 (第97期生)
代表ご挨拶……………木村 知希
・平成27年4月入学者名簿
・保健科学研究院リニューアル……………傳田 健三
- (5) 名誉教授 松野 誠夫先生 (22期) を偲んで……………岩崎 倫政
・名誉教授 山下 格先生 (29期) を偲んで……………久住 一郎
・春の褒章、叙勲……………小林 公民 安孫子 保
- (6) 春の褒章、叙勲……………阿部 弘 辻井 博彦
・平成26年度 医学研究科・医学部医学科
各賞受賞者……………廣重 力 石田 晋
- (7) 平成26年度フラテ研究奨励賞報告
……………櫻木 範明
・受賞の喜び
秦 洋郎 三田村 卓 坂下 智博
- (8) 受賞の喜び……………庄野 雄介 平田 健司
・エルムの仲間達へ⑤……………及川 欧
- (9) 海外で活躍する同窓生……………梶谷 道夫
・北大病院研修医体験記①……………吉田 将大
- (10) CBT、OSCE受験体験記……………李 里花
・理事会・評議員会報告・告知板
- (11) 告知板
- (12) ご寄付の報告
・平成27年度同窓誌「写真・絵画」「文芸」
原稿募集について
・同窓会役員名簿・北海道医学会からお知らせ
・フラテ祭2015 9月開催
- (13) 同窓会費について・新刊書紹介
- (14) 新刊書紹介
・ご逝去者・一面の写真説明・編集後記

「医学部保健学科・保健科学研究院リニューアル」

傳田 健三 (57期)



医学研究科長・医学部長 再任のご挨拶

かさ はら まさ のり
医学研究科長・医学部長 笠原 正典 (56期)

この度、引き続き医学研究科長・医学部長の任にあたることになりました。会員の皆様のこれまでのご支援とご協力に心より御礼申し上げます。

この2年間は、文部科学省から打ち出された「国立大学改革プラン」に沿って、さまざまな改革が行われた時期でした。医学研究科においても、教育・研究機能の強化を図るため、大学院組織の改組が決定され、その準備が始まったところです。平成29年度には、医学研究科を医学研究院（教員の所属組織）と医学院（大学院生の所属組織）に改組し、新たに医学系の学院として医学、理学、工学の連携を担う人材を養成する医理工学院を設置する予定です。これに伴い、昭和30年の設置以来、長らく親しまれてきた「医学研究科」の名称が「医学研究院・医学院」に変更されることとなりますが、皆様には相変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

昨年、北海道大学は文部科学省より「世界大学ランキングトップ100を目指す力のある、世界レベルの教育研究を行うトップ大学（スーパーグローバル大学）」に選定されました。スーパーグローバル大学に求められていることの1つは国際通用性です。研究はもちろんですが、教

育においても国際通用性が求められます。教育面では、大学院教育の国際化を図り、英語のみで学位を取得できるコースを設けたいと考えております。医学科においても、学生が海外の大学で実習に参加する機会を増やすとともに、外国の学生に本学で実習する機会を与え、学生の英語でのコミュニケーション能力と国際性を高めたいと考えています。

平成31年に医学部は創立百周年を迎えます。10億円を目標に寄附を募り、医学部百年記念館（仮称）を建設し、教育・研究のための基金を設立することを計画しております。百年記念館には、歴史資料を展示する室のほか、同窓会員のためのサロンや会議室等を設ける予定です。記念事業の成功には同窓会のご支援が不可欠です。よろしくお願い申し上げます。

大学は学問の府であり、医学研究科・医学部の使命は、「真理の探究を通じて人類の健康と福祉に貢献し、医学と医療の未来を担う人材を養成する」ことにあります。この使命を常に念頭に置きながら微力を尽くしてまいりたいと思っております。会員の皆様には、今度とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。再任のご挨拶といたします。



新入会員を歓迎して

あさ か まさ ひろ
医学部同窓会会長 浅香 正博 (48期)

医学部91期の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。北海道大学医学部同窓会は皆さんのご入会を心より歓迎いたします。医学部同窓会は北海道大学医学部第1期生の卒業とほぼ同時に発足しており、近々100年にならんとする歴史を持っており、約6600名もの会員から成り立っています。これから君たちは医学部同窓会が年に3回発行している同窓会新聞、隔年ごとに発行している同窓会員名簿と同窓会誌を受け取るようになります。君たちも同窓会の一員としてこれらの編集に自然な形で携わるようになりますのでよろしくお願い申し上げます。

医師という職業は、患者と直接向かい合い個人情報を共有しながらその病気を治していくことを目的としています。したがって、医師になったと同時に他の職業にはない大きな責任を負うことになります。学生時代は自分の評価を自分で行うことができましたが、これからは自分で評価できる部分は少なく、患者や医療スタッフなど第三者によって評価されることが多くなります。一般社会も厳しい目を持って君たちを見つめることでしょう。患者の命を預かる重要な職業ゆえに、大きな義務も生じているのです。ノブレス・オブリージュ（高貴なるゆえの義務）の世界に否応なく入り込んでいくことになるのです。そのためこれからは

他の分野から見ると、山あり谷ありの起伏の多い人生を歩んでいくことになることが予想されます。人から感謝されることが実感できる医師という職業はやりがいのある仕事ですので、将来年を経て人生を振り返ったときに充実感を感じることができるよう、それぞれがしっかりと人生設計を行って前に進んで行っていただきたいと思っております。

北海道大学医学部は2019年に創立100周年を迎えることになり、記念行事をどのように行っていくかについて、同窓会と医学部が話し合いながら進めていくことになっています。100年という大きな節目を迎えることでさらに新しい飛躍につながることを期待しております。君たちはこの伝統のある北海道大学医学部を卒業し、大きな希望と目標を持って医師としての長い歩みの一歩を記し始めたのです。

北海道大学医学部同窓会は、入会された91期の皆さんの発展と飛躍を心から期待し、できる限りの支援をいたしたいと考えております。なお同窓会の活動はすべて同窓会員による会費で賄われていることを忘れないで下さい。昨年からはコンビニからも納入ができるようになりましたので、毎年の入金をくれぐれも忘れないようお願いいたします。

平成26年度総会報告及び新入会員歓迎会報告

■平成26年度総会報告

平成26年度北大医学部同窓会総会が、2月9日(月)午後6時より札幌パークホテル「高砂」で開催されました。

会議に先立ち、昨年の総会以降にご逝去された85名の会員のご冥福を祈り、黙とうが捧げられました。

総会は評議員会議長の南 勝先生(40期)と副議長の工藤俊彦先生(46期)の進行により行われ、最初に浅香正博同窓会長(48期)の挨拶があり、続いて議事録署名人として福田 諭氏(52期)及び齋藤晶理氏(79期)が指名されました。

協議事項では、会則の一部改正として浅香会長から、①退会・再入会規定、②会費免除規定、③役員の後任者選任までの職務遂行規定について、改正趣旨及び改正案を説明の後、審議了承されました。次に平成25年度会計決算として吉岡充弘会計担当理事(60期)から、決算状況について説明の後、審議了承されました。次に平成25年度会計監査として桜田教夫監事(専7新)から、会計処理は適切かつ正確に行われている旨説明の後、審議了承されました。

報告事項では、庶務報告として浅香会長から、会員数の推移及び平成26年度の諸会議開催状況、事業報告として浅香会長から、経費支援を行った医学

部学友会事業の実施状況、及び吉岡理事(フラテ研究奨励賞選考委員)から、平成26年度同賞選考経緯及び選考結果、編集報告として田中伸哉編集担当理事(66期)から、平成26年度に発行した同窓会新聞及び会員名簿の編集・発行状況、平成26年度会計中間報告として吉岡理事から、会計収支状況及び会費納入状況がそれぞれ報告されました。

総会終了後に、平成26年度フラテ研究奨励賞授賞式が執り行われました。

授賞式は同賞選考委員の吉岡理事の司会により進められ、秦 洋郎氏(78期)、三田村 卓氏(77期)、坂下智博氏(78期)、庄野雄介氏(79期)、平田健司氏(78期)の5名に浅香会長から表彰楯及び研究奨励金が授与され、お祝いと激励の言葉が述べられました。

■第91期新入会員歓迎会

総会に引き続き午後7時より同ホテル「ザ・テラスルーム」にて第91期新入会員歓迎会が開催されました。

歓迎会は卒業生がそろって参加しやすい日ということで、医師国家試験の最終日の夜に開催することが恒例となっています。本年は2月7日(土)から9日(月)の3日間が国家試験であったことからこの日の開催となったものであり、91期卒業生66名及び同窓会員38

名が参加しました。

会は前半が田中伸哉先生(66期)、後半が西田竜太郎先生(73期)の司会により進められ、最初に浅香会長から、国家試験の労いの言葉に続き「どこにいても北大医学部の先輩がいる。北大出身というだけで親切にしてもらったりすることがあると思う。ぜひ同窓会の活動にも積極的に参加してください。」と新入会員を歓迎する挨拶がありました。

次いで医学部教職員を代表して大学院医学研究科長・医学部長の笠原正典先生(56期)から「同窓会は卒業生同士の親睦組織であると同時に、母校を支援する組織である。北大という素晴らしい環境で学んでこられたのも多くの支援があつてのことで、今後は後輩のことも考えていってほしい。」と挨拶がありました。

続いて三浦 旭先生(28期)の「医師は人の命を預かる仕事であり、誇りと使命感をもって過ごしてください。」という挨拶と乾杯のご発声により開宴となりました。

会が進む中、新入会員を代表して深瀬理沙さんの挨拶、ご来賓の先輩会員からも阿部 弘先生(37期)、向井正也先生(57期)、藤井ひとみ先生(57期)から新入会員に励ましのスピーチがあ

りました。

会を通して各テーブルでは新入会員と先輩方が談笑したり、記念写真を撮ったりする姿が見られました。

会の後半の余興では高下泰三先生(32期)が新入会員へのメッセージを込めて「マイウェイ」を熱唱し、また、阿部 弘先生が「花と蝶」、フラテ研究奨励賞受賞者の秦 洋郎先生、坂下智博先生、平田健司先生により「明日があるさ」が披露され、歓迎の宴が大いに盛り上がりました。

定刻の午後9時には名残惜しい雰囲気の中、池端 隆先生(27期)による閉会の乾杯の後、毎年恒例となっている「都ぞ弥生」を新入会員の坪内 駿君の前口上に続いて参加者全員が輪となって大合唱し、本年の歓迎会は盛大に終了しました。



全員で「都ぞ弥生」を大合唱

平成26年度総会資料

平成25年度 北海道大学医学部同窓会 会計収支決算報告書

収入の部		平成26年3月31日	
項目	予算額	収入済額	実行率(%)
会費収入	18,690,000	18,995,000	102
事業関連収入	210,000	300,000	143
広告収入	200,000	300,000	150
販売収入	10,000	0	0
雑収入	501,000	550,147	110
利息収入	1,000	1,053	105
保険事務費	500,000	549,094	110
当年収入	19,401,000	19,845,147	102
前年繰越金	6,920,578	6,920,578	100
収入合計額	26,321,578	26,765,725	102

支出の部

項目	予算額	支出済額	実行率(%)
事業費	11,020,000	12,114,721	110
総会・新入会員歓迎会	800,000	835,182	104
新聞・会誌印刷費	4,800,000	5,208,089	109
通信運搬費	2,100,000	2,137,981	102
記念品費	160,000	108,905	68
学友会助成金	1,400,000	1,200,000	86
同窓会ホームページ経費	60,000	89,250	149
名簿管理等プログラム	600,000	654,150	109
会費納入プログラム	0	1,029,000	—
研究助成	1,100,000	852,164	77
総務費	8,270,000	8,476,543	102
職員給与費	4,400,000	4,411,927	100
諸保険事業主負担	950,000	947,114	100
諸謝金	50,000	30,000	60
会議費	150,000	206,322	138
渉外費	50,000	15,660	31
旅費交通費	150,000	154,220	103
印刷製本費	2,000,000	2,049,161	102
通信費	200,000	265,990	133
消耗品費	200,000	261,205	131
手数料・広告料	20,000	15,564	78
備品購入費	100,000	119,380	119
予備費	100,000	2,000	2
当年支出額	19,390,000	20,593,264	106
収支差額	6,931,578	6,172,461	(繰越高)

平成25年度 北海道大学医学部同窓会 特別会計報告書

銀行名		預金の種類	平成24年度末(25.3.31)預金額	期間受入額	期間利息	平成25年度末(26.3.31)預金額	備考
三菱UFJ信託銀行	定期預金	9,529,811	—	2,279	9,532,090		
三井住友信託銀行	定期預金	10,121,159	—	2,413	10,123,572		
北洋銀行	定期預金	3,042,986	—	511	3,043,497		
北洋銀行	普通預金	182,671	595,356	52	778,079	※寄付金受入	
合計		22,876,627	595,356	5,255	23,477,238		

※寄付金受入状況 平成25年11月18日 金545,356円 17期 荒川 巖様、高桑榮松様
平成26年 1月15日 金 50,000円 専6日 金谷 寛様

平成25年度会計監査報告書

北海道大学医学部同窓会
会長 浅香 正博 殿

平成26年4月24日、平成25年度北海道大学医学部同窓会会計収支決算状況の監査を慎重に実施した。

監査の結果、出納簿及び関係書類の整備、並びに特別会計の預金等の会計処理は、適正かつ正確に行われており、平成25年度の北海道大学医学部同窓会の会計処理は、決算書通り正当であると認めた。

平成26年4月24日

監事 櫻田教夫
監事 小山 司

同窓会費の納入は
口座振替で

平成26年度より同窓会費の納入方法を、①口座振替、②コンビニ納付、③銀行振込に変更しました。

とくに口座振替は、店頭へ行く手間が省けて便利です。また、会費の二重払い防止にもなりますので、是非ご利用ください。

希望する方は、同窓会事務局にお申し付けください。

新入会員挨拶

ふか せ 深瀬 理沙 (91期)



第91期生を代表して挨拶申し上げます。先日は我々91期生のために、北海道大学医学部同窓会新入会員歓迎会をご開催くださって、誠にありがとうございました。国家試験を終え、一種の安堵感と不安を抱いていた時に、医師としての先輩方とお話をすることができて、大変有意義な時間となりました。新たに我々もこの同窓会に参加させていただいたことを、とても嬉しく思っております。

我々は6年の医学科教育課程とその成果を発揮する国家試験を終え、当文書が掲載される頃には既に研修医として働く身分となっていることでしょう。人の健康や命を左右しうる立場は非常に重い責任を伴い、時に大きなプレッシャーに押しつぶされそうになることもあるかもしれません。しかしそれ以上に、医師として人を救うことは誇らしいことであり、間違いなく社会で必要とされる仕事でもあります。

かつて医療機器や医薬品が開発されていなかった時代に比較して、現代の医療はめざましく発展し、対応できる疾患や救える患者の範囲も大幅に広がっています。ですが医療が高度に発展したが故に、同時に新たな問題が生じているという現実もあります。例えば、従来救えなかった患者が救えるようになった結果としての超高齢社会、治療の選択肢が広がったがゆえのオーダーメイド医療の複雑化、あるいは遺伝子診断に伴う倫理的懸念などが代表的なものです。これらの問題は医療従事者だけで対処できることではなく、社会的に多様な方面からアプローチを試みなければ決して解決することはできません。故に私たちは、医療従事者

の中のみで完結するのではなく、社会の一員として他職種の人々と連携することが求められていくのです。多くの人の健康を支援することで社会に貢献できる存在になることを目指して、我々は医療に対し、他職種ながらも同じ仕事に携わる仲間に対し、そして今現在の社会で生きる人々に対し、これまで以上に真摯に向き合っていく次第であります。

最後になりましたが、北大医学部同窓会および同窓会員の皆様の一層の発展とご活躍を願い、我々もまたその一員として恥じることはないよう努力を重ねていくことを誓います。

第91期生名簿(103名)

平成27年6月1日現在

会員氏名	出身校	勤務先	会員氏名	出身校	勤務先	会員氏名	出身校	勤務先	会員氏名	出身校	勤務先
青木 佑介			木村 光輝	名古屋立聖	田附興風会北野病院	高橋 理程			深瀬 理沙	遺愛女子	北大病院
青木 佑磨	札幌南	河北総合病院	桐山 琴衣	金沢泉立	帯広厚生病院	高森信乃介	久留米大学附設	KKR札幌医療センター	福田 開人	海城	湘南鎌倉総合病院
青柳 裕之	渋谷教育学園幕張	旭川赤十字病院	草島 萌美	札幌南	手稲溪仁会病院	舘 弘之	札幌北	砂川市立病院	藤井 宝顕	札幌南	帯広厚生病院
赤羽慧一郎	旭川東		工藤 彰彦	札幌南	帯広厚生病院	立田大志郎			藤井真理子	札幌南	日鋼記念病院
秋江 惟能			小住 英之	札幌第一	北大病院	田邊 翔			藤盛 理子	宮城第一女子	気仙沼市立病院
秋元 亨介	札幌南	北海道医療センター	小林 正幸	立命館慶祥	小樽市立病院	玉置 陽生			古家 翔		小樽市立病院
芦名 一茂	灘高校	天使病院	齋藤 孝祐			千葉 幸輝	札幌北	北大病院	星 達也	北嶺	苫小牧市立病院
家坂 光	札幌南	市立札幌病院	斉藤はるか			坪内 駿	札幌北	苫小牧市立病院	堀 寛太		
石井 陸	札幌南	帯広厚生病院	坂谷 駿	北嶺	帯広厚生病院	出村 理海	札幌北	市立函館病院	眞井 翔子	明石高専	北海道がんセンター
石部 正和			佐々木雄輝			寺井小百合	帯広柏葉	北大病院	眞井 洋輔	札幌南	KKR札幌医療センター斗南病院
板垣 有紀			佐々木 亮	札幌南	NTT東日本札幌病院	土井 和尚	高槻	江別市立病院	前田 拓哉		
植田 隆太	東大寺学園	北大病院	佐藤 彩	札幌南	天使病院	豊田 真帆			松本 一馬		
上原 拓樹	都立西	勤医協中央病院	佐藤 克哉	函館ラ・サール	勤医協中央病院	内藤正一郎	札幌北	日鋼記念病院	丸尾 優爾	札幌北	旭川赤十字病院
大木 聡悟	札幌南	手稲溪仁会病院	澤田 修		JCHO北海道病院	中館 聡子		湘南藤沢徳洲会病院	味藤 静	札幌南	市立札幌病院
緒方 隆司			澤田 恭助	札幌北	旭中央病院	中村 友亮	札幌南		宮田 惟		
荻野 陽			白石 春生			西川 晃司	札幌南	都立駒込病院	美山 仁		
梶川 博之	千種	小張総合病院	白川 雄一			新田 統昭		西宮市立中央病院	山崎 洋		
加藤 伸平			新海 晃弘		小樽協会病院	庭野 陽樹	仙台第二	帯広厚生病院	山田 聡		市立函館病院
上石 崇史			杉浦 文康	旭川東	小樽協会病院	能登谷元聡			山手 智志	山口県立徳山	日鋼記念病院
河口 紗慧			杉野 弘和		滝川市立病院	野村 一葉	札幌西	勤医協中央病院	山本 岳	札幌北	虎の門病院
川邊 智宏			鈴木 智貴			長谷川 栄	帯広柏葉	製鉄記念室蘭病院	吉河 歩	麻布	釧路労災病院
川村 駿介	札幌北	日鋼記念病院	鈴木 麻由			服部 悠斗	沼津東	聖隷浜松病院	吉河 亨		
岸 法磨	旭川東	旭川赤十字病院	関根 隆博		砂川市立病院	濱田 詩織	鹿児島立鶴丸	横浜市立みなと赤十字病院	吉村 一樹		
北原 圭太	札幌南	KKR札幌医療センター	千丈 創		聖路加国際病院	原田 晋平	札幌西	釧路労災病院	米内口正一		
木下 舞	筑波大学附属	市立加西病院	高田 直和			久末 直広	札幌北	王子総合病院	和田 莉奈		
木原 圭梧			高橋 秀臣	麻布	東大医学部附属病院	平尾 高行	駒場東邦	武蔵野赤十字病院			

教授退任挨拶



社会医学というコトバ；始まりの頃

衛生学・細胞予防医学分野

ふじた ひろよ 藤田 博美 (会員2)

最初は、衛生学の冒頭だった。「基礎医学、臨床医学と並ぶ医学の三本柱」とアリナミンの開発者・藤原元典先生が話した。フランス革命後、政治を担うのは資本家か、労働者か、王党派かと争われた。その間、貧困を含む社会問題において医学が担う使命があるとする学問が産まれた。1848年、チャーチスト運動(英)、二月革命(仏)、三月革命(奥、普)で労働者が政権を握った。医学誌Gazette médicale de Paris 3月号に初めてMédicine socialeという項目が誕生した(革命の敗北で、こっそり

消えた)。医学専門3年目に社会医学実習があった。医療過疎地グループに入った。夏休み、故郷の沖の塩飽水軍の島の一つ、広島で聞き取りをした。三つの島からなり、面積16km、人口1893人、高齢化率17%(2000年の日本に相当)、昭和の大合併で丸亀市に吸収されて16年目だった。

島に何があるだろう…。行って驚いた。市は県庁に「離島のための緊急患者輸送艇がある」と届けていた。市の保健課、企画課、秘書課、競艇事業局、

消防署、警察と尋ね歩いたが、該当する船はない。誰が届けたのか判らない。

5つの集落(326戸、高齢者190人)の46戸52人から、18~23人の寝たきり老人の存在を聞き取った。未訪問の4集落(300戸、高齢者133人)を考えれば30人以上と想定される。福祉事務所と赴任後4ヶ月の保健師の把握数はそれぞれ13人と0人、診療所医師の往診先では15人。

診療所ではレントゲンが使用に耐えず、14年前に移築された四半世紀以上前の建物の老朽化に困っていた。担当の市保健課は「レントゲンは医師が使わないだけ、建物は14年前の新築」。

石切り場があった。石材事務所「白蟻病はない」と聞いた。話を聞いた7人の労働者のうち白蟻病患者を知らない人が2人、複数の潜在患者がいると答

えた人が5人。休業が難しいので診断のために市中心部の病院に行くのは無理だ、と。労働基準監督署では申請がないので白蟻病はないとの見解。

何が正しいのか判らないまま実習は終わった。判ったこと；合併すれば小さな地域は無視される。平成大合併は前車の轍を踏んでいないのか、気になりながら停年を迎えました。瀬戸内の小島よりも厳しい地域の多い北海道、皆様のご尽力をお願いして筆を置きます。



平成27年4月入学者(第97期生)代表ご挨拶



木村 知希

この度第97期生として北海道大学医学部に入学しました木村知希と申します。今年度から伝統ある北海道大学医学部そして北海道大学医学部同窓会に入らせていただくことになり、非常にうれしく思っています。恐縮ですが第97期生を代表してご挨拶申し上げたいと思います。

先日、少し感じたことがありました。僕の住んでいる学生会館で、ある高校1

年生の男の子と話していた時のことです。北海道大学にいと自己紹介をしているうちに、必ず「学部はどこですか?」という会話になります。ところが、この子と初めて会った時から学部を聞かれたことも、大学を聞かれたこともありません。相手が遠慮しているだけとか、大学生同士と違って当然だといえ

ばそうかもしれません、というよりおそらくその子にとっては関係なく、興味

のわからないことなのでしょう。ただ大学生のお兄さんというだけなのです。僕たちは多くの人から「北海道大学の」「医学部の」と認識され、意識されているはずですし、自分たちの中でもそういう意識は少なからずあるでしょう。僕たちは良い意味でも悪い意味でもプライドを持っているはずですが、ただ同時に一人の人間として何をするかということも考えていくべきだと感

じました。これから医学部で6年という長い期間を過ごすことになりますが、第97期皆で勉学を含め、大学生として様々なことに励みたいと思っています。諸先生方、大学関係者の方々、先輩方には、いろいろお世話になることと思いますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。これでご挨拶とさせていただきます。

平成27年4月入学者名簿(103名)

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校																																																																																																																																																																																																												
木村 知希	甲陽学院	植田沙也加	札幌南	佐藤 遥	群馬県立中央中等教育学校	赤坂 幹	札幌南	村山 千咲	札幌光星	土橋 大樹	北海	野々垣康秀	浅野	西藤 吉宏	東邦大学付属東邦	白井 東磨	取手	高橋 惇	札幌旭丘	山本 凌輔	札幌南	音喜多香貴	札幌南	串田 大治	渋谷教育学園幕張	福井 独歩	東邦大学付属東邦	松原 羽矢	兵庫県立神戸	中村 有里	東京都立西	井上清一郎	青森県立八戸	中枝 建郎	旭川東	橋爪 大弥	函館ラ・サール	大木 莉夏	札幌南	下野 里奈	遺愛女子	村上 相登	北嶺	玉城 大希		小野 翼	札幌南	河野 伶王	旭川東	佐治 銀河	秀明	新福 伸久	高卒認定	淡谷 直希	長野県松本深志	山下たんぼ	札幌南	中野 謙	広島学院	畑中 佑介	札幌南	藤田 周平	北嶺	松本 紘弥	旭川東	高橋 巧宅	大阪桐蔭	横山 健気	札幌南	加藤 諄	東海	小谷 涼太	愛知県立時習館	加地 紫苑	宮崎県立宮崎西	沖田リョウ	札幌西	藤井 裕里	横浜雙葉	岩出祐一郎	武蔵	中村俊太郎	札幌南	服部 健人	洛南	佐多綜一郎	東京学芸大学附属	高野 英華	藤女子	本杉 大	静岡県立静岡	茶木 駿	小樽潮陵	上條 晴喜	北嶺	小林 圭太	東海	麓 佳月	東大寺学園	馬淵 有斗	立命館慶祥	池永 成広		山本 早姫	豊島岡女子学園	中村 輔	北見北斗	早川 宗弥	巣鴨	川井ゆり子	三重県立津	杉原 啓太	六甲	高橋 護	札幌南	吉見 聡	逗子開成	貴島 渉	ラ・サール	今 杜王	札幌西	澤井 悠樹	帯広柏葉	槌野由香里	桜蔭	藤吉 朋子	鹿児島県立鶴丸	大嶺 律	昭和薬科大学附属	中谷 匠	札幌南	原林 亘	札幌南	前田 和来	淳心学院	三浦 譲司	三田	森 遼太郎	愛光	津坂 隼也	釧路湖陵	北川裕太郎	愛光	Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北		
野々垣康秀	浅野	西藤 吉宏	東邦大学付属東邦	白井 東磨	取手	高橋 惇	札幌旭丘	山本 凌輔	札幌南	音喜多香貴	札幌南	串田 大治	渋谷教育学園幕張	福井 独歩	東邦大学付属東邦	松原 羽矢	兵庫県立神戸	中村 有里	東京都立西	井上清一郎	青森県立八戸	中枝 建郎	旭川東	橋爪 大弥	函館ラ・サール	大木 莉夏	札幌南	下野 里奈	遺愛女子	村上 相登	北嶺	玉城 大希		小野 翼	札幌南	河野 伶王	旭川東	佐治 銀河	秀明	新福 伸久	高卒認定	淡谷 直希	長野県松本深志	山下たんぼ	札幌南	中野 謙	広島学院	畑中 佑介	札幌南	藤田 周平	北嶺	松本 紘弥	旭川東	高橋 巧宅	大阪桐蔭	横山 健気	札幌南	加藤 諄	東海	小谷 涼太	愛知県立時習館	加地 紫苑	宮崎県立宮崎西	沖田リョウ	札幌西	藤井 裕里	横浜雙葉	岩出祐一郎	武蔵	中村俊太郎	札幌南	服部 健人	洛南	佐多綜一郎	東京学芸大学附属	高野 英華	藤女子	本杉 大	静岡県立静岡	茶木 駿	小樽潮陵	上條 晴喜	北嶺	小林 圭太	東海	麓 佳月	東大寺学園	馬淵 有斗	立命館慶祥	池永 成広		山本 早姫	豊島岡女子学園	中村 輔	北見北斗	早川 宗弥	巣鴨	川井ゆり子	三重県立津	杉原 啓太	六甲	高橋 護	札幌南	吉見 聡	逗子開成	貴島 渉	ラ・サール	今 杜王	札幌西	澤井 悠樹	帯広柏葉	槌野由香里	桜蔭	藤吉 朋子	鹿児島県立鶴丸	大嶺 律	昭和薬科大学附属	中谷 匠	札幌南	原林 亘	札幌南	前田 和来	淳心学院	三浦 譲司	三田	森 遼太郎	愛光	津坂 隼也	釧路湖陵	北川裕太郎	愛光	Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北														
串田 大治	渋谷教育学園幕張	福井 独歩	東邦大学付属東邦	松原 羽矢	兵庫県立神戸	中村 有里	東京都立西	井上清一郎	青森県立八戸	中枝 建郎	旭川東	橋爪 大弥	函館ラ・サール	大木 莉夏	札幌南	下野 里奈	遺愛女子	村上 相登	北嶺	玉城 大希		小野 翼	札幌南	河野 伶王	旭川東	佐治 銀河	秀明	新福 伸久	高卒認定	淡谷 直希	長野県松本深志	山下たんぼ	札幌南	中野 謙	広島学院	畑中 佑介	札幌南	藤田 周平	北嶺	松本 紘弥	旭川東	高橋 巧宅	大阪桐蔭	横山 健気	札幌南	加藤 諄	東海	小谷 涼太	愛知県立時習館	加地 紫苑	宮崎県立宮崎西	沖田リョウ	札幌西	藤井 裕里	横浜雙葉	岩出祐一郎	武蔵	中村俊太郎	札幌南	服部 健人	洛南	佐多綜一郎	東京学芸大学附属	高野 英華	藤女子	本杉 大	静岡県立静岡	茶木 駿	小樽潮陵	上條 晴喜	北嶺	小林 圭太	東海	麓 佳月	東大寺学園	馬淵 有斗	立命館慶祥	池永 成広		山本 早姫	豊島岡女子学園	中村 輔	北見北斗	早川 宗弥	巣鴨	川井ゆり子	三重県立津	杉原 啓太	六甲	高橋 護	札幌南	吉見 聡	逗子開成	貴島 渉	ラ・サール	今 杜王	札幌西	澤井 悠樹	帯広柏葉	槌野由香里	桜蔭	藤吉 朋子	鹿児島県立鶴丸	大嶺 律	昭和薬科大学附属	中谷 匠	札幌南	原林 亘	札幌南	前田 和来	淳心学院	三浦 譲司	三田	森 遼太郎	愛光	津坂 隼也	釧路湖陵	北川裕太郎	愛光	Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																										
橋爪 大弥	函館ラ・サール	大木 莉夏	札幌南	下野 里奈	遺愛女子	村上 相登	北嶺	玉城 大希		小野 翼	札幌南	河野 伶王	旭川東	佐治 銀河	秀明	新福 伸久	高卒認定	淡谷 直希	長野県松本深志	山下たんぼ	札幌南	中野 謙	広島学院	畑中 佑介	札幌南	藤田 周平	北嶺	松本 紘弥	旭川東	高橋 巧宅	大阪桐蔭	横山 健気	札幌南	加藤 諄	東海	小谷 涼太	愛知県立時習館	加地 紫苑	宮崎県立宮崎西	沖田リョウ	札幌西	藤井 裕里	横浜雙葉	岩出祐一郎	武蔵	中村俊太郎	札幌南	服部 健人	洛南	佐多綜一郎	東京学芸大学附属	高野 英華	藤女子	本杉 大	静岡県立静岡	茶木 駿	小樽潮陵	上條 晴喜	北嶺	小林 圭太	東海	麓 佳月	東大寺学園	馬淵 有斗	立命館慶祥	池永 成広		山本 早姫	豊島岡女子学園	中村 輔	北見北斗	早川 宗弥	巣鴨	川井ゆり子	三重県立津	杉原 啓太	六甲	高橋 護	札幌南	吉見 聡	逗子開成	貴島 渉	ラ・サール	今 杜王	札幌西	澤井 悠樹	帯広柏葉	槌野由香里	桜蔭	藤吉 朋子	鹿児島県立鶴丸	大嶺 律	昭和薬科大学附属	中谷 匠	札幌南	原林 亘	札幌南	前田 和来	淳心学院	三浦 譲司	三田	森 遼太郎	愛光	津坂 隼也	釧路湖陵	北川裕太郎	愛光	Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																						
河野 伶王	旭川東	佐治 銀河	秀明	新福 伸久	高卒認定	淡谷 直希	長野県松本深志	山下たんぼ	札幌南	中野 謙	広島学院	畑中 佑介	札幌南	藤田 周平	北嶺	松本 紘弥	旭川東	高橋 巧宅	大阪桐蔭	横山 健気	札幌南	加藤 諄	東海	小谷 涼太	愛知県立時習館	加地 紫苑	宮崎県立宮崎西	沖田リョウ	札幌西	藤井 裕里	横浜雙葉	岩出祐一郎	武蔵	中村俊太郎	札幌南	服部 健人	洛南	佐多綜一郎	東京学芸大学附属	高野 英華	藤女子	本杉 大	静岡県立静岡	茶木 駿	小樽潮陵	上條 晴喜	北嶺	小林 圭太	東海	麓 佳月	東大寺学園	馬淵 有斗	立命館慶祥	池永 成広		山本 早姫	豊島岡女子学園	中村 輔	北見北斗	早川 宗弥	巣鴨	川井ゆり子	三重県立津	杉原 啓太	六甲	高橋 護	札幌南	吉見 聡	逗子開成	貴島 渉	ラ・サール	今 杜王	札幌西	澤井 悠樹	帯広柏葉	槌野由香里	桜蔭	藤吉 朋子	鹿児島県立鶴丸	大嶺 律	昭和薬科大学附属	中谷 匠	札幌南	原林 亘	札幌南	前田 和来	淳心学院	三浦 譲司	三田	森 遼太郎	愛光	津坂 隼也	釧路湖陵	北川裕太郎	愛光	Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																		
畑中 佑介	札幌南	藤田 周平	北嶺	松本 紘弥	旭川東	高橋 巧宅	大阪桐蔭	横山 健気	札幌南	加藤 諄	東海	小谷 涼太	愛知県立時習館	加地 紫苑	宮崎県立宮崎西	沖田リョウ	札幌西	藤井 裕里	横浜雙葉	岩出祐一郎	武蔵	中村俊太郎	札幌南	服部 健人	洛南	佐多綜一郎	東京学芸大学附属	高野 英華	藤女子	本杉 大	静岡県立静岡	茶木 駿	小樽潮陵	上條 晴喜	北嶺	小林 圭太	東海	麓 佳月	東大寺学園	馬淵 有斗	立命館慶祥	池永 成広		山本 早姫	豊島岡女子学園	中村 輔	北見北斗	早川 宗弥	巣鴨	川井ゆり子	三重県立津	杉原 啓太	六甲	高橋 護	札幌南	吉見 聡	逗子開成	貴島 渉	ラ・サール	今 杜王	札幌西	澤井 悠樹	帯広柏葉	槌野由香里	桜蔭	藤吉 朋子	鹿児島県立鶴丸	大嶺 律	昭和薬科大学附属	中谷 匠	札幌南	原林 亘	札幌南	前田 和来	淳心学院	三浦 譲司	三田	森 遼太郎	愛光	津坂 隼也	釧路湖陵	北川裕太郎	愛光	Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																														
小谷 涼太	愛知県立時習館	加地 紫苑	宮崎県立宮崎西	沖田リョウ	札幌西	藤井 裕里	横浜雙葉	岩出祐一郎	武蔵	中村俊太郎	札幌南	服部 健人	洛南	佐多綜一郎	東京学芸大学附属	高野 英華	藤女子	本杉 大	静岡県立静岡	茶木 駿	小樽潮陵	上條 晴喜	北嶺	小林 圭太	東海	麓 佳月	東大寺学園	馬淵 有斗	立命館慶祥	池永 成広		山本 早姫	豊島岡女子学園	中村 輔	北見北斗	早川 宗弥	巣鴨	川井ゆり子	三重県立津	杉原 啓太	六甲	高橋 護	札幌南	吉見 聡	逗子開成	貴島 渉	ラ・サール	今 杜王	札幌西	澤井 悠樹	帯広柏葉	槌野由香里	桜蔭	藤吉 朋子	鹿児島県立鶴丸	大嶺 律	昭和薬科大学附属	中谷 匠	札幌南	原林 亘	札幌南	前田 和来	淳心学院	三浦 譲司	三田	森 遼太郎	愛光	津坂 隼也	釧路湖陵	北川裕太郎	愛光	Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																																										
服部 健人	洛南	佐多綜一郎	東京学芸大学附属	高野 英華	藤女子	本杉 大	静岡県立静岡	茶木 駿	小樽潮陵	上條 晴喜	北嶺	小林 圭太	東海	麓 佳月	東大寺学園	馬淵 有斗	立命館慶祥	池永 成広		山本 早姫	豊島岡女子学園	中村 輔	北見北斗	早川 宗弥	巣鴨	川井ゆり子	三重県立津	杉原 啓太	六甲	高橋 護	札幌南	吉見 聡	逗子開成	貴島 渉	ラ・サール	今 杜王	札幌西	澤井 悠樹	帯広柏葉	槌野由香里	桜蔭	藤吉 朋子	鹿児島県立鶴丸	大嶺 律	昭和薬科大学附属	中谷 匠	札幌南	原林 亘	札幌南	前田 和来	淳心学院	三浦 譲司	三田	森 遼太郎	愛光	津坂 隼也	釧路湖陵	北川裕太郎	愛光	Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																																																						
小林 圭太	東海	麓 佳月	東大寺学園	馬淵 有斗	立命館慶祥	池永 成広		山本 早姫	豊島岡女子学園	中村 輔	北見北斗	早川 宗弥	巣鴨	川井ゆり子	三重県立津	杉原 啓太	六甲	高橋 護	札幌南	吉見 聡	逗子開成	貴島 渉	ラ・サール	今 杜王	札幌西	澤井 悠樹	帯広柏葉	槌野由香里	桜蔭	藤吉 朋子	鹿児島県立鶴丸	大嶺 律	昭和薬科大学附属	中谷 匠	札幌南	原林 亘	札幌南	前田 和来	淳心学院	三浦 譲司	三田	森 遼太郎	愛光	津坂 隼也	釧路湖陵	北川裕太郎	愛光	Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																																																																		
早川 宗弥	巣鴨	川井ゆり子	三重県立津	杉原 啓太	六甲	高橋 護	札幌南	吉見 聡	逗子開成	貴島 渉	ラ・サール	今 杜王	札幌西	澤井 悠樹	帯広柏葉	槌野由香里	桜蔭	藤吉 朋子	鹿児島県立鶴丸	大嶺 律	昭和薬科大学附属	中谷 匠	札幌南	原林 亘	札幌南	前田 和来	淳心学院	三浦 譲司	三田	森 遼太郎	愛光	津坂 隼也	釧路湖陵	北川裕太郎	愛光	Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																																																																														
今 杜王	札幌西	澤井 悠樹	帯広柏葉	槌野由香里	桜蔭	藤吉 朋子	鹿児島県立鶴丸	大嶺 律	昭和薬科大学附属	中谷 匠	札幌南	原林 亘	札幌南	前田 和来	淳心学院	三浦 譲司	三田	森 遼太郎	愛光	津坂 隼也	釧路湖陵	北川裕太郎	愛光	Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																																																																																										
原林 亘	札幌南	前田 和来	淳心学院	三浦 譲司	三田	森 遼太郎	愛光	津坂 隼也	釧路湖陵	北川裕太郎	愛光	Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																																																																																																						
Keng Wee GOH	シンガポールNJC※	北 佳奈子	室蘭栄	杉山優太郎	渋谷教育学園渋谷	石津 光来	北嶺	涌井 理之	札幌西	永本 郁宏	札幌南	後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																																																																																																																		
後藤 浩文	愛知県立旭丘	志賀 直樹	滝	利光 秋華	北見北斗	高橋 佑太	岩見沢東	大森 高志	本郷			馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																																																																																																																														
馬場 大介	北嶺	前田 史名	北嶺	水島 敦基	北嶺	細川 侑香	札幌南	辻野 紘史	札幌北			明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																																																																																																																																										
明戸 千尋	札幌南	工藤ひらり	札幌北	高桑 雅弘	石川県立金沢泉丘	森越健之介	札幌南	岡本 琢朗	麻布			斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																																																																																																																																																						
斉藤 輝	札幌北	柴崎凌一郎	長崎県立長崎西	外山 夏樹	慶應義塾女子	伊勢 昂生	小樽潮陵	鶴田 亮	青森県立八戸			日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																																																																																																																																																																		
日置 一樹	富山県立富山中	松島 慎	沖縄カトリック	南川 太一	札幌北	田畑 翼	北嶺	小熊 宥統	札幌北																																																																																																																																																																																																														

※シンガポールNJC (National Junior College)

医学部保健学科・保健科学研究院リニューアル



保健科学研究院副研究院長 傳田 健三 (57期)

医学部保健学科・保健科学研究院は、2014年1月に新研究棟としてE棟が新築し、2014年11月に従来のA、B、C、D棟の改修が終了した。2015年1月9日には、新営・改修完成リニューアル記念式典・内覧会・祝賀会が行われた。

保健科学研究院のルーツは、実に95年前の大正9年(1920年)に設置された看護婦養成の看護法講習科にまで遡ることができる。その後、厚生女学部、看護学校などを経て、さらに臨床放射線技師学校、臨床検査技師学校などの各種学校をまとめ、新たな作業療法学科および理学療法学科を加えて、1980年10月に保健科学研究院の前身である医療技術短期大学部が北海道大学に併設されたのである。

そして、2003年10月に医学部に4年制の保健学科が設置され、2008年からは保健科学院・保健科学研究院という大学院組織として独立した。同年、保健科学院修士課程が、2010年には博士後期課程が開設され、2010年3月に初めての修士課程修了生が、2013年3月には博士後期課

程修了生が輩出されたのである。

現在も学部教育は従来通り医学部保健学科として行われているが、国立大学では最も多い5つの専攻をもち、7つの医療専門職(看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士)を養成している。1学年約200人、大学院生も含めると約1,000人の学生を抱える大所帯として発展し続けている。

ところが、建物は医療技術短期大学部時代のまま30年以上も据え置かれたのである。医療技術短期大学部は主に教育を中心として建築された狭隘な建物であったのだが、その限られたスペースの中で、研究のためのスペースのみならず、大学院生の居室、講義室、実習室、実験室、さらには産学連携のスペースを確保せざるを得なかったのである。私たちにとって、研究棟の新築と従来の建物の改修は長らく待ち望まれたものであったのだ。

新研究棟のE棟と改修されたA、B、C、D棟の紹介をしてみたい。新築されたE棟は5階建ての保健科学研究院研究棟である。5階には産学連携を積極的に推進している健康イノベーションセンターがあり、「高度脂質分析ラボラトリ部門」(通常の検査室・研究室では分析できない脂質や脂質代謝関連

物質を、独自の高度な技術で分析する)、「ヘルスネットワークシステム部門」(インターネットなどICTを活用した地域医療や健康支援を目的として、遠隔健康相談システムの実用化に向けた研究を行う)、「生体分子・機能イメージング部門」(生体内環境・生体内分子機能の可視化技術の開発・応用を行う)の3部門からなっている。

4階には中央研究室としての「コア・リサーチ・ラボ」と機能回復学分野の「感覚・運動動作解析室」がある。3階には看護学分野の「保健医療教育研究センター」「看護生理機能解析研究室」「看護技術評価研究室」と、病態解析学分野の「生理情報解析・生理機能計測室」「超音波画像研究室」、生活機能学分野の「活動分析生活機能解析研究室」がある。1・2階には「看護実践演習室」「共同演習室」「多目的室」「大学院生室」が設けられている。

改修されたA、B、C、D棟は、従来通り、主に教育のための講義室、実習室、演習室、ゼミナール室、教員室、研究室などの他に、事務部門、図書室などがある。今回の改修を機に、各分野ごとに同じフロアに集合・集約することになった。

上述の通り、本年1月9日に新営・改修完成リニューアル記念式典・内覧会・

祝賀会が行われた。記念式典はE棟1階多目的室で行われ、200名を超える多数の方々に出席いただいた。まず、伊達広行研究院長が式辞を述べ、続いて、北海道大学理事である三上隆副学長よりご挨拶をいただいた。医療短大から医学部保健学科へ、さらには大学院保健科学研究院へ発展する経過が述べられた。また、笠原正典医学研究科長をはじめとする4名の方々からご祝辞をいただいた。その後内覧会が行われ、各部門ごとに、新E棟、改修されたA、B、C、D棟をお披露目した。続いて記念祝賀会がC棟6階大会議室で行われた。120名以上の方々に参加され、盛会裏に終了した。

保健科学は、病者、疾病回復者、未病者、また健康者をも対象として身体的・精神的・社会的に健全な生活を回復、維持および増進させるための学問領域である。折しも、わが国では急速な少子高齢化、メタボ人口の急増、およびストレスによる精神失調が保健医療だけでなく社会問題としても注目を集めている。保健科学研究院にはまさにこれら喫緊の課題をあらゆる角度から研究する異分野専門家が集結している。保健科学研究院リニューアルを機に、更なる発展を遂げることを祈念したいと思う。



名誉教授 松野 誠夫先生(22期)を偲んで

機能再生医学講座 整形外科学分野 教授
岩崎 倫政(会員2)

名誉教授 松野誠夫先生(22期)は、平成26年12月3日にご逝去されました。ここに故松野先生の生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、大正12年1月5日札幌に生まれ、昭和21年9月に北海道帝国大学医学部を卒業されました。昭和22年9月に医学部第二外科副手、同年12月 第三外科副手を経て、同23年8月 開講後間もない整形外科教室の助手となられました。昭和26年2月には医学博士を授与され、同27年8月に整形外科講師に就任された後、

同30年3月まで米国のPresbyterian Hospital of Chicago整形外科に留学されました。帰国後の昭和30年7月に整形外科助教授に昇任され、同46年9月に整形外科第3代教授に就任されました。昭和57年1月から4年(2期)にわたり医学部附属病院院長を務められ、同61年3月に定年退官、同4月に名誉教授の称号を授与されました。退官後は、昭和61年6月から美唄労災病院院長、平成7年4月からは北海道整形外科記念病院理事長を務められました。



名誉教授 山下 格先生(29期)を偲んで

神経病態学講座 精神医学分野 教授
久住 一郎(60期)

北海道大学医学部精神医学教室の第5代教授を務められた山下 格名誉教授が平成26年12月1日に86年の生涯を静かに閉じられました。

山下先生は、昭和28年に北大医学部をご卒業され、インターンを終えて、翌年北大精神医学教室に入局されています。昭和38年から2年間ニューヨーク市ウィローブルック州立学校神経内分泌研究所にご留学後、講師、助教授を経て、昭和51年から平成5年の18年間に

わたって教授を務め、多くの精神科医を育成して、北海道のみならず日本の精神科医療に尽力されました。日本精神神経学会をはじめ7つの全国学会で大会長を務められた他、国際神経精神薬理学会の副会長やWHOの生物学的精神医学研究協力センター長もお務めになり、わが国のみならず世界の精神医学の発展にも貢献されました。また、「対人恐怖」や「若年周期精神病」に関する著書を世界に発信されるとともに、

先生は、昭和22年12月に開講された北大整形外科教室の初代メンバーであります。開講直後は、まだ物資が乏しい時代であり初代教授 奥田義正先生、第2代教授 島啓吾先生と共に大変な苦勞をされ教室の土台を築かれました。教授就任後は、国内でいち早く教育、診療、研究に関するsubspeciality体制を教室内で確立し、これを基盤として「専門性の高い整形外科医」を育て上げ、優れた研究業績を世界に向けて発信してきました。

先生は北大で整形外科一筋に仕事をされ、かつ多くの優れた人材を教室から輩出してきました。それにより学内外における当教室の地位は、飛躍的に向上しました。平成10年に勲二等瑞宝章を受章され、平成24年には北海道特

別功勞感謝状を贈呈されていますが、平成25年に北海道大学大学院医学研究科・医学部医学科特別賞を受賞された際には、大変喜ばれ、盛大な祝賀会が催されました。先生が、心から北大と北大整形外科を愛されていたことを示すエピソードであります。

最後に、私の教授就任時に先生からいただいた貴重なお言葉を紹介させていただきます。“人を育てるといことは本当に大変で時間もかかる仕事である。しかし、これほどやりがいのある仕事は他にない。”私自身、この言葉を常に心に留め、先生が大変な苦勞をして築き上げられた北大整形外科をさらに発展させていく所存であります。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

「誤診のおこるとき」、「精神医学ハンドブック」など長らく読み継がれている多くの名著も残されました。北大を退職後は、平成12年まで北星大学社会福祉学部教授をお務めになる傍ら、満80歳まで医療法人平松記念病院の外来で熱心に一臨床医として診療を継続されました。

山下先生の患者さんに対する診察は、どんな場合にでも十分な時間をかけて、大変丁寧で誠意にあふれており、相手の気持ちを自然に開かせるような、まさに職人芸そのものでありました。新患外来や病棟回診で先生の診察に陪席させていただいた経験は、私にとって「精神科医の原点」になっていると言っても過言ではありません。先生は、北

大教授時代の思い出を聞かれて、「再来の患者さんを診察している時が一番の幸せであった」と答えられたことが非常に印象的であり、最後まで一臨床医として診療に関わることにこだわられたことは、まさに先生の信念と高いプロフェッショナルリズムの表れであったと感じます。先生が私たちに残してくださった多くのものを教室のこれからの若い世代に末永く継承していくことが私に課せられた大きな役割であることを今、改めて肝に銘じております。

山下先生を精神医学の恩師として敬愛し、今日まで長らくご指導いただいた者の一人として、心から先生のご冥福をお祈り申し上げます。

春の褒章、叙勲

旭日双光章受章

元空知医師会会長
小林 公民 (35期)

今春、空知医師会のご推薦により、一昨年の小泉先生(33期)に続いて旭日双光章の受章に浴する事が出来ました。今まで勿論叙勲の先生方は居られたのですが、推薦母体が主に地方自治体だったので、地方医師会が推薦出来ると思ってもいなかったことと、開業医の先生方は皆生涯現役で、叙勲そのものに関心が無かったせいもあり、私が医師会長時代に

推薦すべき先生がいらしたのに、死後叙勲となり、申し訳ない事をしたと思っています。

人間の価値を勲章によって分けるのは良くないと云うことで、一等、二等の数字はなくなりましたが、それでも何となく順番は、はっきり分かりまして、相変わらず政、官、民の順位で、税金より所得を得ている人の方が、自分で稼いで税金をきちんと納めている人より高位の勲章となっています。

空知医師会は現在119名の大所帯ですが、殆どが砂川市立病院を中心とする勤務医で、開業医は20名未満です。医師会

長は開業医からという不文律から、私も会長、副会長合わせて20年以上となりましたが、その間皆に支えられ、これと言ったリーダーシップを發揮する事もなく、とても叙勲の資格など無いのですが、これより続く人のためにもと、有難くお受けした次第です。

砂川で産婦人科医院を開業して44年となりますが、今年1月2日の誕生日で80歳の今も一応現役です。その間自分の病気、怪我等で休診した事はありません。しかし、私は高血圧、高血糖、高脂質の三高で、多病アップアップで何とか生きています。12年前に入院を止め、今は外来のみ、

ごく少数の患者さんを、焦らず、自分の惚け防止のために診ています。現役である限り、医師会に伴う仕事も多少ありまして、何とか役に立っているつもりです。

入院診療の期間は30年ですが、お産の数は1万人一寸となりました。帝王切開は出来るだけ避け、自然分娩を目指していたのですが、残念ながら、心痛む極少数の脳性麻痺の例もありまして、出来たら障害者関係の仕事に関わりたいたいと思っていたのですが、縁があって(精神障害者支援の社会福祉法人くるみ会)のボランティア理事長に推され、12年が経ちました。

瑞宝中綬章受章

旭川医科大学
名誉教授
安孫子 保 (33期)

「叙勲の榮に浴して」
このたび、はからずも叙勲の榮に浴することになりました。今までお世話になった先輩各位並びに同僚に心からの感謝を申し上げます。大学院時代、助手時代を通じて教育、研究の指導をして下さった恩師の故田邊恒義北大名誉教授、実験を指導し支えて下さった市原和夫北海道薬

科大学元副学長と橋爪裕子旭川医大元助教授、その他多くの方々の協力と助言に対して心から感謝申し上げます。

思えば57年前、インターンを修了してから母校に帰り、どの教室に入ろうかと迷っていました。実家からの至上命令は祖父と父の後を継いで開業医になることでした。でも開業する前に研究もしてみたい、そういう中途半端な気持ちでいました。もし臨床医になるとすれば、必ず薬を使う。従って薬のことを学んでおけば、開業した時に役に立つに違いない。という考えで薬理学教室を訪ねました。結論から言うと薬理学を学んでも処方上手になるわけではないです。しかし、

薬の作用機序を知ることは魅力がありました。

私が取り組んだテーマはジギタリス徐脈のメカニズムと虚血心筋保護のメカニズムです。特に後半のテーマは魅力がありました。心臓は虚血になると組織のATPが減少し、リゾリン脂質が増加します。虚血になると細胞膜が破壊され、その結果、細胞膜の脂質二重層からリゾリン脂質が切り出されてきます。切り出されたリゾリン脂質は細胞膜にさらなるダメージを与えます。リゾリン脂質を心臓に与えると虚血と同様のダメージを起します。つまり虚血による細胞膜のダメージはリゾリン脂質が正のフィード

バックを起こして細胞膜に大きなダメージをおこし、細胞を急速に破壊するものと考えます。

虚血が比較的短時間であれば、再灌流すれば一度低下したATPは増加して回復しますが、虚血で増加したリゾリン脂質は再灌流によってさらに増加することが知られています。これが再灌流障害の実体であろうと考えています。従って虚血によるリゾリン脂質の増加を抑制することができれば、再灌流障害を抑制できる筈です。虚血後再灌流障害を防御する薬物ができれば、虚血が原因となっている多くの病気を安全に治療することが出来ると信じています。

瑞宝中綬章受章



北海道大学
名誉教授
あべ ひろし
阿部 弘
(37期)

「叙勲受賞にあたって」

この度は、叙勲の栄を賜り誠に光榮に存じております。北大医学部を卒業後、ご指導いただいた故諏訪望先生、故都留美都雄先生、先輩の諸先生、並びに御支援いただいた同輩、後輩の諸先生に心から感謝いたします。

私は昭和36年に北大医学部を卒業し、インターンの後に昭和37年に脳神経外科を学ぶために精神医学教室（諏訪望教授）の傘下にあった脳神経外科診療班（都留美都雄助教授）へ入りました。脳神経外科が独立するまでの3年間を過ごした精神医学教室では、諏訪望先生並びに諸先生の薫陶をうけ、私の医師としての人格形成の礎となる貴重な経

験をしました。

昭和40年に脳神経外科が講座として独立し、都留美都雄先生が初代教授に就任しました。3日に1度の当直勤務と厳しいレジデント教育を受けました。臨時手術の後に定期手術が続く、手術室から一歩もでないうちに日が暮れていきました。当時は、いかにして眠る時間と食べる時間を確保するかばかりを考えていました。1969年から1972年迄、約3年間、米国オハイオ州立大へ留学して、Nitrosoureaによる実験脳腫瘍の作製とLysosome酵素の研究に従事しました。当時としては、実験脳腫瘍の先端を行く仕事でした。

1970年代になって、顕微鏡下手術の時代となり、脳神経外科の手術は、より微細で精密なものになりました。手術成績は飛躍的に向上しましたが、手術時間が10～10数時間という手術が続きました。私は手術を記録した16mmフィルム、又はビデオテープを何本もかかえて世界の学会へ乗り込みまし

た。それらの映像は言葉のハンディーを超えて聴象に感銘を与えてくれました。やがて、頸椎後縦靭帯骨化症、頭蓋頸椎推移行部病変、脊髄腫瘍、脊髄空洞症などの患者が、海外から次々と紹介されて北大病院へ送られてきました。また私は、手術器械をかかえて、海外へ手術に出かけた事も数回ありました。これらの脊髄疾患の中でも、頸椎後縦靭帯骨化症に対する顕微鏡下での頸椎前方除去固定術は、私のもっとも得意とする手術で、世界でもっとも多くの手術件数となりました。

私は外国を飛びまわっていましたが、教室員は診療と研究、そして論文発表に活躍してくれました。16年間に教室から発表された論文は総数で1397編あり、うち英文論文は396編でした。選択が最も困難な米国脳神経外科学会で口頭発表に於ける日本からの演題は毎年2～3題しか選択されない中で、北大からは必ず1～2題採用され、教室の実績は日本を代表するものとなりまし

た。私は、もっぱら招待講演を依頼され、それは10年以上続きました。

北大病院長時代は、小児科での日本最初の遺伝子治療が行われ、マスコミとの対応に追われました。また、北大病院に於けるボランティアの方々による支援活動を提案し、実現する事ができました。

馬車馬のように走りまくった教授時代でしたが、私を支援してくださった医学部、病院の皆様、教室員の諸君に深甚なる感謝の意を表します。

平成12年、北大を定年退官後は、北海道医療大学で2年間教育にたずさわりましたが、その後は民間病院で診療に従事してきました。平成18年より再び手術を行うことになり、9年間で約450件の手術を行ってきました。今も週1件の手術を行っております。私の現在の願望は、“もっと手術がうまくなりたい！”です。身体の続く限り手術を続けていきたいと思っております。

瑞宝中綬章受章



元(独)放射線医学総合研究所
重粒子医学センター長
つばい ひろひこ
辻井 博彦
(44期)

「津軽海峡を渡って30年」

私が北大に入学以来26年間住み慣れた札幌を離れ、筑波大学陽子線医学利用研究センターに赴任したのは1988年のことです。翌年1月に昭和天皇が崩御され「平成元年」がスタートしましたので、それ以来すでに30年近く経つこと

になります。ともあれ、道産子の私にとって、居を移すため津軽海峡を渡るはその時が初めてでしたので、何となく感傷に浸ったのを今でも覚えています。

1994年になり、私は筑波大学から千葉市にある放射線医学総合研究所に移動しました。がん治療を目的とした重粒子線加速器としては世界初のハイマックという装置を用いた重粒子線がん治療プロジェクトの臨床責任者を任されたからです。三百数十億円かけたハイマックは最先端の機能を有しており、世界の注目を集めていましたので、

私がこれを使いこなしてみようという気概でした。それ以来、20年以上重粒子線治療に取り組んできましたが、治療患者数は9,000人以上になります。

私は現在、同研究所フェローという立場で国内外の粒子線治療施設の技術支援を行うかたわら、東京で粒子線がん相談クリニックを開設、また公益財団の副理事長として人材育成事業などを行っています。海外での技術指導や講演も平均月1、2回こなしています。

こういった経歴の私が、この度、春の叙勲で「瑞宝中綬章」を受章しました。そもそも重粒子線治療はニッチな存在

でしたので、それを専門としてきた自分が受章するというのは光榮に思いうらみ、なにやら面はゆい感じも否めません。私が筑波大学に赴任した当時、粒子線治療施設は世界でも僅か数カ所でした。それが今では60箇所以上に増え、なかでもわが国は人口当たり施設数が世界1です。まさに隔世の感があります。今回の受章は、私個人に対してというよりは、これまで私と一緒にやってくれた多くの仲間を代表して頂いていると思っています。

私のルーツは北大にあります。北大のますますの発展を祈念致します。

平成26年度 医学研究科・医学部医学科各賞受賞者

医学研究科・医学部特別賞をいただいて



ひろしげ つとむ
廣重 力
(31期)

このたびの受賞に驚くとともに、関係各位に厚く御礼申し上げます。

正式の通知によりますと、受賞対象者は「教育・研究あるいは社会貢献で顕著な業績をあげた者」とあります。私の場合、教育研究は医学部時代のことであり、社会貢献は広義には北大総

長・大学入試センター所長、北海道医療大学長・理事長時代を指すこととなりますが、そのいずれでも顕著な業績をあげたという自信がなく、いささか不安であります。そこで自分自身を説得するために、以下に老人特有の自画自賛をさせていただきます。

1991年第14代北大総長に選出されたことは医学部スタッフの皆さんの献身的なご支援の賜物であり、深く感謝しております。それは私が母校北大の淵源、建学の精神を誇りにしていたからであります。大学院重点化の改革の波が押し寄せ

てきたとき、当時の文部省が「まずは東大方式で」という意向でしたが私は「北大方式」を強力に主張いたしました。

また総長就任最初の卒業式の告辞(1992・3)でも、卒業生の皆さんに次の3点を問いかけてきました。第1は、進行する国際化のなかで、日本文化、ひいては日本人のアイデンティティ(同一性、本質)をどう確立するのか。第2に、国家間あるいは国内においても利害の対立に由来する紛争にどう対処するのか。第3に、人口の爆発的増加、地球汚染の進行による人類破滅の危機にどう対応するのか。これらについて諸君は北大でなにを学びとることができたのか。

この問いかげは現在でも本質的には変

わっていません。私自身がこの25年間なにも進歩していないのか、あるいは私が四半世紀前すでに今日の問題点を見通していたのかと自問しております。なおこれらの発想の大意は拙著「多岐亡羊2007」「続・多岐亡羊—世界あらたを求めて2014」に述べてあります(ともに自費限定出版で、国会図書館、北大図書館、北大医学部図書館、北海道医療大学図書館に寄贈・登録)。

よく「早起きは三文の得」といいますが、この度の受賞に鑑み「長生きは百文の得」だと思えます。今後とも心して長生きに専念したいと存じます。このたびはまことに有難うございました。

優秀研究賞を受賞して



いしだ すすむ
石田 晋
(会員2)

この度、私が取り組んでまいりました研究テーマ「受容体結合プロレニン系による網脈絡膜疾患病態機序の解明」に対して、平成26年度医学研究科・医学部「優秀研究賞」が授与されました。笠原正典医学研究科長をはじめ、選考委員の先生方に深く感謝申し上げます。

私たちの研究グループでは①(プロ)レニン受容体(P)RRがプロレニンの非タンパク分解的活性化(三次構造変化によるレニン活性獲得)により眼組織RASを活性化すること、②(P)RRの細胞内伝達シグナル(ERK1/2活性化など)が網脈絡膜病態を惹起することを明らかにしました。(P)RRによるこの2つの作用は眼組織のみならず腎臓や心臓などの病態モデルにおいても認

められ、受容体結合プロレニン系(receptor-associated prorenin system: RAPS)として注目されております。

これまでに、(P)RRの阻害薬としてプロレニン分子のハンドリング領域デコイペプチドが開発され、様々な疾患モデル動物実験で使われており、その病態抑制の有効性は証明されています。しかしながら、ペプチド製剤かつ競合的阻害薬であるため免疫原性など問題は少

なくなく、直接の臨床応用は難しいと考えられております。現在では、臨床応用を視野に入れ、本学薬学院との共同研究により効果的な分子標的薬の開発を展開しています。

一方、(P)RRはRAPSの活性化以外に、ATP依存性プロトンポンプVacuolar

H+-ATPaseのアダプタータンパクとしての機能を有することが報告されております。私たちの研究グループは近年、(P)RRは網膜発生における細胞極性に関与することも明らかにしました。このような生理的機能への影響を最小限に抑える点にも留意することで、安全性

の高いプロレニン(P)RR結合阻害薬の治療戦略を確立することは、生活習慣病が急増している高齢化社会において極めて重要であると考えております。

眼球は局所投与に適した半閉鎖空間であり、全身への安全性の懸念が少ないことから新薬開発に有利な臓器で

す。本研究により、安価で副作用のない新薬の創製が実現し、医療水準の向上に少しでも貢献できればと考えております。

今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成26年度フラテ研究奨励賞報告

選考委員会委員長
櫻木 範明(52期)

フラテ研究奨励賞は毎年の12月に公募することになっており、平成26年度も昨年の12月に公募した結果、11名の応募がありました。

選考は、5名の委員が申請書類を基に事前審査を行い、本年1月15日(木)に

選考委員会を開催して、研究業績、研究計画の発展性等について多様な観点から審査を行った結果、5名を受賞者として決定しました。

授賞式は、本年2月9日(月)に札幌パークホテルにおいて執り行い、浅香正博同

窓会長から表彰楯及び研究奨励金が贈呈されました。

本賞は、医学部同窓会の若手会員(応募の年度末で40歳未満)に対し、創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて第12回

となる今回の受賞者を含めてこれまでに48名の方を顕彰し、その多くが受賞後も期待どおりの研究業績を挙げています。

今後も、医学研究の発展に大きな可能性を秘めた若手会員が、奮って応募されることを期待します。

「受賞の喜び」

(順不同)

研究課題：乳房外パジェット病の悪性度に対するMUC5AC発現の包括的検討



医学研究科
皮膚科学分野
はた 洋郎 (78期)

平成26年度フラテ研究奨励賞を頂戴し誠にありがとうございました。皮膚悪性腫瘍を専門とし、日々手術に明け暮れて

いたものにとって、研究に関する内容でこのような評価を頂けましたことは、本当に光栄であります。授賞式で頂いた表彰状は、現在研究室のデスクに鎮座しておりますが、家宝にしたいと思っております。

本研究では、上皮内病変、浸潤部、転移の確認されたリンパ節のそれぞれにおいて、microarrayによってMUC遺伝子のDNAの増幅の有無を確認し、MUC1,2,5AC,6について免疫染色を施行し、その発現の程度を検討しました。上記4種抗体のうち、MUC5ACは、病理学的に浸潤を認める部位では11例中9例が、そしてリンパ節転移の5検体中4検体

において2+またはそれ以上の強陽性であり、これらの結果からEMPDにおけるMUC5ACの発現の強度と病理学的深達度と予後不良の危険性には正の相関性があることが統計学的有意差を持って確認されました。すなわち、MUC5ACの発現の程度は病理学的に真皮への浸潤を来たし、リンパ節転移などを来たす現象と正の相関があり、ハイリスク症例を抽出する免疫組織学的マーカーとなりうることを明らかにしました。

卒業してからというもの、日夜臨床業務にまい進する中では、あまりこの同窓会の存在を意識する機会はなかったの

ですが、授賞式後の懇親会では諸先輩方を前に、同時に受賞した同じ78期の、耳鼻科坂下先生、核医学分野平田先生と一緒に一曲披露するという、一生の思い出を作ることができ、またその時温めていたアイデアを二人に披露して論文の共著者になってもらい一人では書き上げることが出来なかった論文を無事に投稿することが出来ました。

今回の受賞を励みに、引き続き、皮膚悪性腫瘍に関する研究を進め、北海道大学医学部のますますの発展の一翼を担えたらと思います。これからも皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

研究課題：女性悪性腫瘍の診断と治療への micro RNAの応用



医学研究科
生殖内分泌・腫瘍学分野
MD Anderson cancer center
三田村 卓 (77期)

この度はフラテ研究奨励賞に選出いただき誠にありがとうございました。

化学療法耐性の進行、再発卵巣癌治療に対しては、2003年に発表されたパクリタキセル・カルボプラチン併用療法以来、全生存期間の延長効果があるとのコンセンサスが得られている治療がほとんどありません。そのため、従来にない新たな発想で根治あるいは長期生存を望める治療の開発が急務となっています。

私は現在アメリカのMD Anderson cancer centerに留学しています。こちらではRNAを用いた診断や治療が注目されており、私もその研究開発に加わら

せていただいています。最近ではsiRNAを用いた臨床試験がスタートしましたし、その他にもノンコーディングRNA、今回私が研究課題として申請したmicroRNAや、リンカー RNAといった単語を聞かない日はありません。これらのRNAの役割は徐々に明らかにされつつもまだ不明な点が多く、患者の治療に活かせる素材が多く眠っている宝の山かもしれません。そのため、当科でもRNAの研究を積極的に行い臨床応用に向けて基礎医学的な背景の理解を深め、また新たな発見を発表してい

たいと考えています。

これから大学院等で基礎研究を始めようとしている、特に腫瘍外科系の若手医師の皆さんへのメッセージですが、基礎研究に触れて浸潤転移や化学療法耐性獲得のメカニズムを考え出すようになると、術中所見の取り方や手術内容について考えさせられることが圧倒的に増え、患者を見る目が変わると思っています。短期間でも構わないと思っておりますので、基礎医学に触れる時間を作るといいと思っております。

研究課題：Cyclin D1を指標とした頭頸部癌における新規治療法の開発



医学研究科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野
坂下 智博 (78期)

このたびは、名誉あるフラテ研究奨励賞を賜ることができ大変光栄に存じます。わたしの専門は頭頸部癌に対する外科的治療になりますが、2008年から2年間、北大の同門で当時、国際医療福祉大学三田病院で頭頸部腫瘍センター長をされていた鎌田信悦先生のも

とに研修させて頂く機会を得ました。手術治療を中心に学びましたが、適切な手術を受けられても尚、再発腫瘍・遠隔転移を認めるなど外科治療単独では癌の制圧がなし得ない治療の難しさも同時に学ばせて頂きました。このような経緯もあり、北海道大学に戻ってからも多くの症例を経験しましたが、術後再発の免疫組織学的予後因子の検討・放射線治療後の救済手術に関する検討など臨床研究についても自然と取り組む形になりました。そのような取り組みがフラテ研究奨励賞という素晴らしい賞を頂くという形で認められたものと大変感謝しております。今回、自身が選出された事だけではなく、日々の臨床でもお世話になっている同期のふたり(核医学科の平田健司先生と皮

膚科の秦洋郎先生) と同時期に受賞できたことは大変な喜びでした。科は違えども、癌治療という一点で、わたし達は同じところを目指しているのだと思います。大変貴重な縁だと思いますので、今後もお互いに切磋琢磨しコラボレーションをしながら良い医療・研究をすすめ、北海道医療に少しでも貢献できたら幸いです。また、いままで受賞して来られた諸先輩方の恥じにならないように、今後も精進して参りたいと思っております。

わたしの敬愛するブルースギタリストBB.キングの言葉で、「The beautiful thing about learning is nobody can take it away from you. (学びの素晴らしさは、誰もそれをあなたから奪えないことだ)」というものがあ

師にも通ずるものがあり、わたしも生涯、「学びの心」を大事にしたいと思っております。

最後に、わたしが入局した14年前より既に教授職に就かれ、現在まで絶えずご指導を頂いた福田論教授。横浜市立大学に栄転された後も、データ解析や論文作成にお手伝い頂いた折館伸彦教授。わたしが研修医の頃より、日々の頭頸部癌診療について師事させて頂いた本間明宏准教授。日頃からわたしを支えてくださる耳鼻咽喉科・頭頸部外科医局員の皆様・同門会の皆様、この場を借りて深く御礼を申し上げます。

研究課題：移植片対宿主病の病態
解明と新規治療法の開発



(医学研究科 血液内科学分野)
Memorial Sloan Kettering
Cancer Center

しょうの ゆうすけ
庄野 雄介
(79期)

「真に臨床に還元できる研究を目指して」
この度は平成26年度フラテ研究奨励
賞受賞の荣誉に浴し、大変光栄に存じ
ます。私は平成15年に本学を卒業後、
血液内科診療に従事し、博士号を本学

癌医学専攻にて取得した後、平成23年
より米国メモリアルスローンケタリン
グ癌研究所にて基礎研究に従事して
おります。最も強力な免疫療法である
造血幹細胞移植療法に魅せられ血液内
科学教室の門を叩き、血液・腫瘍学、
幹細胞医学、移植免疫学の観点から一
貫して造血幹細胞移植における重大な
合併症である移植片対宿主病の病態機
序と新規治療法の開発に関する研究に
従事してきました。臨床に立脚した疑問
から研究を進め、移植片対宿主病に伴
い移植患者の骨髓骨芽細胞が障害され
る事象をマウスモデル及び本学におけ
る前向きな臨床研究で世界に先駆けて
報告しました。その後ヨーロッパの別

の施設からも追試の報告が出ました。
現在は東京大学及び国立がんセンター
とも連携して治療に有用な可能性の
ある抗体の臨床研究開始の準備段階に
あります。渡米後も移植片対宿主病の
病態機序としてクローン病にも深い関
連があるオートファジー関連遺伝子や抗
生物質投与と腸内細菌叢の役割の解明、
また、移植片対宿主病治療に高い有効
性を示すNF-κB経路の一つを特異的に
阻害する低分子化合物の開発等に従事
しています。移植免疫学の研究は幅広
い分野を包含し、その成果は血液学
のみならず、免疫・造血・腫瘍学へと
大きく広がり、新規発見の恩恵を受け
る対象疾患や病態も様々なものを含む

可能性を秘めており大変やりがいのある
ものです。地域・国境を越えた世界的
な視野を持ち、今後もより良い移植・
免疫治療方法の開発、患者の予後向上
に寄与するトランスレーショナルな研
究をすべく北海道大学医学部同窓会の
若手研究者として邁進致したいと存じ
ます。最後に、選考委員の諸先生方、
学生時代から本学でお世話になったた
くさんの先生方、血液内科の臨床・基
礎研究双方の魅力を教えて頂きたく
さんの助言を頂いた諸先輩方、同門会
及び同窓会の諸先輩方、臨床・基礎研
究に御協力頂いたすべての方々にお
礼を申し上げ、今後も医学の発展に貢
献すべく気持ちを新たに精進致します。

研究課題：F-18標識フルオロミノ
ニダゾールによる低酸素イメージ
ングを用いた新たな脳腫瘍診断法の
確立



医学研究科
核医学分野

ひらた けんじ
平田 健司
(78期)

このたびは、母校の同窓会から憧れ
のフラテ賞をいただくことができ本
当に光栄です。私は2002年に北大
医学部を卒業し、核医学という分野
に魅せら

れ、玉木長良教授のもと診療、研究
を続けてきました。2012年からの
2年間は米国UCLAに留学する機会
をいただき、2014年末から北大に
戻り診療、研究、教育に取り組んで
います。核医学の魅力は、血流、代
謝、受容体、トランスポーター、
低酸素等の生体機能をin vivoで
見ることが出来る点、そしてその特
徴ゆえに頭から足先まで多くの診療
科と協力するだけでなく、医学部を
越えて理工学系や薬学の人たちとの
共同研究が多く行われている点であ
ると思います。言い換えると、様々
な診療科や理系分野をつなぐハブ
のような役割を持っていると考えて
います。私自身は

主に脳を対象としたイメージング、
そしてコンピューターを利用した定
量的で客観的な画像診断を研究テ
ーマとしてきました。今回受賞対象
となった研究は、低酸素を画像化
するFMISO PETという手法を用
いて脳腫瘍の悪性度を術前に予測
するものです。腫瘍学において低
酸素は癌幹細胞や放射線治療抵抗
性との関連で最近語られることが
多く、非侵襲的に低酸素の程度と
範囲をみることが出来る本法は今
後ますます使われるようになってい
くと考えています。私自身の目標
として、臨床で必要とされている
ことを見失わないように、頻りに
benchとbedsideとで視点を

き来させるようにして、診断、治
療に直結するような研究テーマを
持ち続けたいと考えています。世
界的には新規の放射性薬剤が数多
く開発されており、この中にはウ
ィルスやアポトーシスを画像化す
るような魅力的なものもあり、ど
ういったものを北大の基礎・臨床
研究に取り入れるか、夢が広が
ります。また、アルファ線を出す
核種による内照射治療は高い効果
が報告され始めており、今後は積
極的に関わっていきたく思います。
核医学の手法、技術がお役に立て
そうな事例がありましたらぜひ
khirata@med.hokudai.ac.jp
までご連絡をいただければ幸い
です。

エルムの仲間達へ⑤ 半世紀の道のり



第56次南極地域
観測隊医療担当

いかわ おさむ
及川 欧
(67期)

私は今、南極にいる。外はまたブリ
ザードだ。こちらへ来て以来7度目、
いや8度目だろうか。自分の南極への
道のりを思い出すには、絶好の機会
だ。

“Boys, be ambitious (少年よ、大志
を抱け)”の言葉を遺した、ウィリアム
S. クラーク。この3単語に続く文言
には諸説あり、私が好きなのは”Boys,
be ambitious like this old man (少年
よ、この老人(クラーク博士ご自身
のことか)の如く、大志を抱け)”とい
うものだ。日本政府の要請で、マサ
チューセッツ農科大学から北海道大
学の前身である札幌農学校に赴任
した1876年、博士は五十歳だった。
このold manには、大志だけでなく、
理解者や協力者、好機とそのタイ
ミング、決断、計画性と行動力が揃
ったからこそ、1万キロもの海や山
を越え、文化や生活習慣をはじめと
する困難に打ち勝ち、札幌農学校の
教育の基盤を作る偉業を達成出来た
のであろう。

1911年に、探検家のスコットとア
ムンセンが南極点への初到達を競い、
僅差でアムンセン隊の勝利に終わ
った。彼らの文字通りの死闘を横目
にしながら、

ら、同時期に日本人として初めて南
極上陸した白瀬(のぶ)中尉も、当時
五十歳。2年前のピアリー北極点踏
破を知って悔しがり、極地探検の矛
先を南極へと切り替えた白瀬は、義
援金で調達した木造帆船「開南丸」
で、日本から1万4千キロ離れた南
極へ辿り着いた。計算し尽された資
材と機動力を最大限に使い尽くした
アムンセンの快挙を、心中複雑な思
いで見守ったに違いない。探検家
になりたい夢を抱き続け、幼少時
からの戒律を守って自ら励ましつ
つも、義理人情に絆され、信頼し
た仲間に裏切られたこともあった
白瀬だが、夢の方向性を決して見
失わず、日本の南極地域観測の礎
を築いた。

クラーク博士と白瀬中尉は、私が
北大医学部在学中の頃から敬愛す
るお二人だ。背景の異なる生き様
を詳細に検証し、もし自分なら、
自分らしさの中で何が出来るかを
、ひたすら考えた時期もある。

医学部卒業後、私はウイルス研究
のため大学院に進学した。その頃、
世界で「エイズ・パニック」が生じ、
誤った情報の錯綜による、特定の
人々への偏見や差別が蔓延した。私
は、正しい医学知識の普及から始
め、情操教育まで行う必要性を信
じ、研究者仲間や各界の名士たち
と一緒に「ストップ・エイズ」ジャ
パン実行委員会を立ち上げ、エイ
ズに関する一大啓発キャンペーン
のために東奔西走した。

大学院を卒業する直前、阪神・淡
路大震災が生じた。短絡的に行動
せず、正確な情報を集めながら必
要物資や医療資材を準備してから
西宮市に赴き、関西NGO医療ボラ
ンティアの一員として、1か月ほど
災害医療支援活動に身を置いた。
それが、広域災害支援について私
が真剣に取り組むきっかけにな
った。人道支援の在り方を知るた
め、国連や民間諸機関の現場活動
を見学しながら、東アフリカの難
民キャンプ巡りをし、新聞や雑誌
に寄稿したこともある。

いつのまにか、医師としての自分
の使命は、広い意味で「弱者支援」
(語弊があるかもしれないが)と医
療教育だと思ふようになった。

その後、北大神経内科学講座で
研修を受けながら日々の診療に専
念し、積極的に医療スタッフへの教
育にも携わった。必要に迫られ、
心身医学、東洋医学、救急医学、
リハビリテーション医学などの素
養も少しずつ身につけた。

5年間の米国研究留学中に、ア
メリカ赤十字社の災害支援ボラン
ティア活動に従事し、帰国後は旭
川医科大学病院の救急科とリハビ
リテーション科にお世話になるこ
とにした。医療過疎傾向にある道
北・道東エリアとつながりを持つ
ことの出来る、道北ドクターヘリ
、救命救急センターや在宅医療の
立ち上げに合流するためだ。久し
ぶりに行う、大学や専門学校での
若手への講義は、毎回楽しかった。



医療補助隊員に技術指導を行う



唯一の医師として隊員を見守る

旭川医大病院の玄関に、「南極の石」
が飾ってある。急患対応で疲れた夜
半に、ふとその石の前にしゃがみ
込み、石を通して過去の諸先輩
方と対話する自分がいた、「極寒
の中、人はどんなストレスを感
じる?」「大自然を相手に、どん
な適応が可能か?」「宇宙と比
べ、

孤独感はどう異なる？」などと。学生講義で、いつのまにか「南極に行く」と口に出すようになっていた。

地元の消防団に入り、雪氷学会災害調査チームやASSH（雪崩事故防止研究

会)の活動に参加し、今後の災害に向けてJICAのJDR（国際緊急援助隊）、Rescue3、WALS、MIMMS、K38やDMATをはじめとする救急や災害関連の講習会を受けて修行した。東日本大

震災では、DMATや日本医師会JMATメンバーとして、初動期から被災地支援活動を続けた。

3年あまりの被災地支援を終えた頃だったか、手元に1通の合格通知が届

いた。そして、私は今、日本を代表する25名の精鋭越冬隊員たちと共に、南極昭和基地にいる。

海外で活躍する同窓生



かじ たに みち お
梶谷 道夫
(61期)

同窓会新聞投稿依頼いただき大変光栄です。1990年に渡米して以来25年も経ってしまいましたので私のことなど忘れた方や知らない先生方も多いかと察します。私は1985年北大卒（61期）で横須賀米軍病院で1年研修後、田邊達三教授の第2外科で大学院に入りました。麻酔科で半年研修後、函館共愛会、苫小牧王子、国立札幌、栗山日赤、歌志内の病院で武者修行をさせていただき、1990年春には大学院卒業。郷一知先生と交代する形でメイヨークリニックで心臓肺移植を1年余、小児心臓外科を1年臨床実習させていただきました。1992年からはオレゴン州ポートランドでアルバートスター博士のもとで主に成人心臓外科の手術三昧の日々を2年間楽しませて頂き、1994-7年オレゴン医科大学で外科レジデンス、専門医取得。1999-2002年アーカンソー州立医科大学で胸部外科レジデンス、専門医を取得し、以来リトルロック市で開業しております。1-2年の留学のはずが居心地の良さから延長しているうち1996年にこちらで結婚し、永住するこ

とになりました。米国でトップクラスの心臓外科医を目指す気持ちは未だに変わっておりません。STSの統計でも全米トップ25%の成績は維持しております。主な症例は冠動脈バイパス、弁置換形成、大小血管、胸部一般です。最近5年間はアーカンソーハートホスピタルと専属契約し、この病院一カ所で診療に集中するようにしました。かつてはソロプラクティスで自分のオフィスを持っていたのですが、最近の米国の医療経済の悪化の中、個人での開業の限界を悟った上での決断です。

せっかくの機会ですから面白い症例を紹介します。

1. 35歳女性が下肢の急性虚血で転送されてきました。CTで腹部大動脈に血栓があり、緊急開腹、血栓除去を行いました。塞栓物は粘液腫と判り、心エコーで左心房粘液腫確認。翌日開心術で切除。下肢の再還流障害でコンパートメント症候群併発の為、筋膜切開。1ヶ月後に下肢解放創も閉鎖し歩行退院し、10年後の今も元気になっているようです。
2. 32歳男性。自宅で侵入者に左胸を刃物で刺される。他病院で胸腔ドレーン挿入。1200ml出血。転送時血圧60。O

型血液輸血。刺入口は胸骨左第2肋間。胸骨正中切開するも、心膜内、左肺に全く損傷なし。左内胸動脈、第5肋間から盛んに出血。1針かけて止血、閉胸。翌日面会に来ていた妻が逮捕されるも患者が被害届けを取り下げ釈放。半年後、買い物中の妻が銃撃され9発被弾するも生き延びたと聴いております。麻薬がらみ？タフな女。

3. 79歳男性。Ⅲb型解離フォロー中、下行大動脈が6.5cmに拡張。CTAでLADに狭窄あり。エントリーは左鎖骨下動脈起始近く。左頸動脈—鎖骨下動脈バイパス、右内胸動脈で前下行枝をオフポンプバイパス、ステントグラフトでエントリー閉鎖。4日後退院し7年後の今でも元気です。

4. 45歳女性。ASDを数年前経皮的閉鎖するも、心不全、頻脈発作を繰り返し、エコーでASD再発、VSDもあり？とのことで紹介され、手術。左房内に血塊様の付着物を認め、ひょっとしてと思いい上行大動脈を開くと無冠尖Valsalva洞に欠損あり。これとASDを自家心膜で閉鎖し、めでたく退院。

なぜか渡米してから剣道を再開し5年前7段取得、3年前教士の称号を頂き、現在全米国剣道連盟の理事を努めてお

ります。4年前の全米大会ではシニアの部で優勝させていただきました。文武併進で励んでおります。休暇がとれるときはなるべく家族と時間を過ごすようにしています。スキーや釣りに興じております。

日本で、北大及び関連病院で、そしてアメリカで多数の症例を経験し、診療技術は今でも発展途上ではありますが、これまでの全ての経験が確実に役にたっております。大学院卒業前には安田慶秀先生にも大変お世話になり、渡米後もサポートしていただいたご恩は決して忘れません。私がここまで来れたのも医局、関連病院で指導、鞭撻していただいた先生方、友人達の忍耐と愛情が有ったことは渡米後もひと時も忘れておりません。この機会を利用して是非お礼させてください。若い先生方も日々の経験を大切にしてください。飴と鞭を放つ先輩方がいるうちは恵まれています。すぐに自分が指導する立場になり、自分の技術と経験しか頼れるものがなくなる日がきます。最後に頼れるのは自分の技量と決断力であることを、開業して痛感しました。これは世界中どこで仕事をしていても同じことだと思います。微力ですが私で皆さんにご恩返しできることがあれば遠慮なく連絡ください。今後ともよろしくお願いいたします。

北大病院研修医体験記① 消化器内科 私のキャリアの始まり



NTT東日本
札幌病院
消化器内科

よし だ まさ ひろ
吉田 将大
(89期)

振り返れば早2年である。取りたての医師免許と根拠のない自信、そして未来への期待感をもって、私の医師人生は消化器内科から始まった。

在学中にお世話になった先生方と仕事をしたい、感謝をしたいという気持ちで私は北大病院での1年目研修を選択した。かねてよりの消化器内科志望であり、まずは消化器内科から新生活のスタートを、という思いであった。本稿では私の体験から消化器内科研修の特色について述べ、消化器内科研修のイメージをお伝えしたい。

消化器内科の研修は専門分野の各グループ、すなわち、肝臓、胆膵、化学療法、内視鏡、炎症性腸疾患のいずれかを自分の好きなように選択し診療に携わる

ことができる。大学ではこのように科内で明確にグループが分かれていることが多いが、消化器内科のように5グループに細分化され、そのいずれもが高度に専門的な診療を行っているという点はまず特色として挙げるべきであろう。

5グループに分かれているとどうしても限られた研修期間では全ての領域を体験することはできないが、どの分野を選べば良いかという点においては実はそう悩む必要はない。学生時代に「これは面白そう」だとか、国家試験の勉強中に「この分野はわかりやすい」と感じた領域を選択すればまず間違いはない。細分化され一般的な臨床知識を身に付けられないのでは、と懸念する人も実は多いのだが、消化器内科ではいずれのグループにせよ研修医として学ぶべきことを広く体験することができる。消化器疾患・症候は消化器内科外の一般臨床でも遭遇する機会が多いものの一つであるからだ。

どのグループにするかを悩む、或い

は消化器内科の面白さがいまいピンとこない人には、個人的には内視鏡グループでの研修を選択し入れることをお勧めしたい。私は、消化器内科の面白さの一つは「病気を目で見、診断・治療ができる」ことであると思う。内視鏡は消化器内科のcommon skillである。内視鏡研修では1年目研修医から積極的に内視鏡に触らせてもらえるし、操作に慣れた段階で実際の患者に施行もさせてもらえる。自分の手でカメラを操作し、診断することは緊張を伴うが、同時に大きな達成感を得ることができる。

消化器内科研修では病棟における研修医の役割が様々な科の中でも比較的大きい。研修の最初期の段階でも病棟のスタッフは患者について相談してくれたり、上級医の先生方も研修医に積極的に手技やスタッフへの指示を任せられる。私の研修時は夜間の1st callが1年目研修医にあたる日があった（もちろんバックアップ体制は万全であ

る）。これは他の科ではなかなか無いことであり、大変な緊張をした覚えがある。同時期に研修をしていた同僚は夜間1st callの日、緊張のあまり病院に泊まるうとしていたのが懐かしい。このように、臨床の前線を経験させてくれる空気が消化器内科には強くある。

毎週1回ある朝のカンファレンスでは全グループが集合し症例提示を行う。症例提示カンファレンスは大体各科で行われるのでイメージはつきやすいと思うが、中でも消化器内科のカンファレンスは結構にシビアである。大抵の科では症例提示の際に質問を投げかけるのは教授かそれに準ずる先生であるが、消化器内科においては色々な所から質問が浴びせかけられるのである。答えられなくても勿論大丈夫なのだが、気付かされる点は非常に多い。プレゼンテーションの組み立て方や行い方は、個人的には研修医の期間で身につけるべき最も大事なことのひとつである。消化器内科に限らず、大学病院での研修

はこの点において優れていると思う。
 プレゼンテーションについては、私が消化器内科で研修していた際は全ての1年目研修医が何らかの学会で発表する機会を与えていただいた。2年目研修医が発表の機会を持つことはそう珍しくないが、1年目の、それも最初期の研修医にも皆にチャンスがまわってくる。

勿論発表するにあたっては年次など関係はなく、こういった点も積極的に経験をさせてくれる消化器内科の特色と言えるだろう。
 限られた紙面上では消化器内科研修で私が体験した様々な思いの全てを紹介することはできないが、私は、自分

のキャリアを消化器内科研修からスタートすることができて本当に良かったと自信を持って言える。消化器内科に強い興味がある人はもちろん、少しでも研修を考えている人はぜひ、消化器内科研修を経験し実りある研修医生活の1ページにさせていただきたいと思う。



2年が経ち、研修医に教える立場となりました

CBT、OSCE受験体験記



むか しか
 李 里花
 (医学部5年生)

4年生は臨床実習開始前の共用試験として、CBT(Computer Based Testing)、OSCE(Objective Structured Clinical Examination)を受験することが義務づけられており、北海道大学では1/28にCBT、2/14にOSCEが実施された。CBTとは、臨床実習に必要な知識の総合的な理解の程度をコンピュータを用いて客観的に評価する試験で合計320設問が出題されるが、その問題セットは個人個人で異なっている。OSCEとは、臨床実習に必要な技能と態度を医療面接、各種診察に6つのステーションに分かれ、客観的に評価する試験である。

CBTは学生にとっては、pre国試のような位置づけであり、4年生の4月早々からCBT向け参考書を解き始める学生もいたが、大半は東医体を終えて10月から本格的な対策を始めた。CBT対策の全国模試などもあり、順位や偏差値も詳細に出るため、結果を見て一喜一憂し、まるで大学受験勉強のようであったが、異なるのは競い合う試験というよりも、全員で受かろうという意識と、お互いの足りない部分は補い合おうという一致団結感であった。実際に何人かで集まり勉強会などを開くことも多かった。CBT試験当日は始まる前は緊張したが、コンピュータを使った試験ということもあり、試験中はさほど緊張しなかった。ただ、設問数も多く、休憩時間も10分間しかないため、試験終了時には疲労感と達成感でいっぱいだった。CBTを受験してみて、臨床実

習前に必要な事項が網羅的に復習することができ、4年間の知識が総整理することができた。また、順次解答4連問は、同一の疾患に対して医療面接時の情報収集から背景の病態生理や必要な検査などを問う形式で、実際の患者さんと向き合っているような緊張感を持って解くことができ、よかった。ただ、CBTで問われる問題は基礎～応用レベルの問題であることが多いため、興味のある疾患に対するより専門的知識は自主的に学ぶ必要があると感じた。

CBTを終えると、翌日からOSCE実習が始まり、医療面接の仕方や身体診察、手技を学んだ。医学部4年間の机上の勉強とは離れ、コミュニケーションの取り方や診察、手技の正確さを評価されることは新鮮であったが、臨床の現場に出ることができると思うと、とても嬉しい気持ちになった。OSCE試験前は、

聴診器を持ち歩き、アイスの棒を舌圧子代わりにして、友人同士で診察しあい、医療面接の練習を行った。OSCE試験当日は本当に緊張し、診察するのに手が冷たいといけないうと思ひ、カイロを4つ握りしめていたのにも関わらず、手足がガタガタ震えたが、試験時間は各ブース5～10分ということもあり、あっという間に終わってしまった。試験終了時には、友人たちとそれぞれの失敗を語り合い、慰め合ったが、その失敗した経験を臨床実習でぜひ活かしていきたいと思う。

CBT、OSCEを受験して得た多くの知識、能力を基本として、臨床実習では多くの先生方、患者さんから教科書やネットの情報では分からない知識以上のことを学ばせていただきたいと思います。

理事会・評議員会報告

理事会

日 時：平成27年4月21日(火)
 午後6時から午後6時45分
 場 所：医学研究科 中会議室
 出席者：理事8名、監事、評議員会議長、副議長

評議員会

日 時：平成27年4月21日(火)
 午後7時から午後7時46分
 場 所：医学研究科 学友会館
 「フラテ」大研修室
 出席者：評議員、予備評議員65名
 (出席15名、委任状提出50名)、
 理事、監事

【協議事項】

1. 役員選出方法の一部改正について

平成10年5月の評議員会で決定した「役員選出方法」について、選考委員会の設置、組織、委員の選出等に関してより明確に規定することが、審議了承されました(平成27年4月21日から実施)。

2. フラテ研究奨励賞選考委員会委員の選出について

会長から推薦された5名の委員候補者が、審議了承されました。なお、任期は平成27、28年度の2年間です。

3. 平成26年度会計決算(案)について
 会計収支状況、各期別会費納入状況及び特別会計預金状況について説明の後、審議了承されました。

4. 平成26年度会計監査について
 監査結果について説明の後、審議了承されました。

5. 平成27年度会計予算(案)について
 会計予算案について説明の後、審議了承されました。

【報告事項】

1. 副会長の交代について
 橋本副会長及び寺沢副会長から副会長辞任の申し出があり、事情を考慮した結果3月末日で辞任を承認し後任者を選出したこと。後任の副会長には佐久間理事、吉岡会計担当理事を委嘱し、会計担当には櫻木理事を委嘱した。任期は本年4月から1年間である旨報告されました。

2. 評議員、予備評議員の一部交代について
 平成26、27年度の2年間を任期とする評議員及び予備評議員の一部交代

について報告されました。

3. 平成26年度庶務、事業報告について
 総会及び新入会員歓迎会の開催状況について報告されました。

4. 平成26年度編集報告について
 同窓会新聞及び会員名簿の発行状況について報告されました。

5. その他
 (1)医学部創立100周年について
 平成31年に医学部創立100周年を迎えること、及び医学部における記念事業の計画概要について報告されました。

議事終了後、会長から、同窓会費の口座振替手続きについて協力依頼がありました。

告知板

<学内・院内人事異動>

<定年退職>

平成27年3月31日 藤田 博美(会員2) 衛生学・細胞予防医学分野教授

<辞職>

平成27年3月31日 橋本 聡一(66期) 麻酔科講師
 (特定医療法人平成会 平成会病院副院長)
 三井 貴彦(69期) 泌尿器科助教
 (山梨大大学院医学工学総合研究部泌尿器科学)
 柴崎 跡也(70期) 血液浄化部助教(北海道医療センター)

田中 輝明(71期) 精神科神経科講師
 (市立釧路総合病院精神神経科)
 穂刈 正昭(74期) 脳神経外科特任助教(手稲溪仁会病院)
 武井 黄太(75期) 周産母子センター助教(北大病院小児科)
 夏井坂光輝(75期) 消化器内科助教(夏井坂内科クリニック院長)
 赤石 理奈(78期) 産科助教(国立生育医療研究センター)
 清水 祐輔(81期) 精神科神経科助教(岩見沢市立総合病院)
 平成27年4月30日 保坂 昌芳(72期) 婦人科助教(福住産科婦人科クリニック)
 山本 貢(75期) 乳腺外科助教(北海道がんセンター)

<任期満了>

平成27年3月31日 柳田雄一郎(80期) 救急科助教(砂川市立病院)
西田竜太郎(73期) 周産母子センター助教
(栄町レディースクリニック院長)
宮本 憲幸(74期) 放射線診断科特任助教(帯広厚生病院)
柿坂 達彦(75期) 消化器外科学分野 I 特任助教(札幌厚生病院)
古沢 純(75期) 耳鼻咽喉科特任助教(医療法人社団宗仁会)
佐藤 和則(77期) 神経内科特任助教(市立函館病院)

<割愛>

平成27年5月1日 井上 猛(60期) 精神医学分野准教授(東京医科大学主任教授)

<採用>

平成27年1月1日 辻野 一三(66期) 呼吸器内科学分野特任教授
折茂 達也(76期) 医学教育推進センター助教
岩見 大基(76期) 腎泌尿器外科学分野助教
金野 陽輔(76期) 医学教育推進センター助教
平成27年2月1日 大原 克仁(81期) 腫瘍内科学分野特任助教
平成27年3月1日 大平 洋(会員2) 呼吸器内科学分野助教
平成27年4月1日 七戸 秀夫(70期) 脳神経外科学分野特任助教
角家 健(71期) 整形外科学分野特任助教
加畑 馨(72期) 検査・輸血部助教
田本 英司(72期) 消化器外科II特任助教

伊藤 侯輝(75期) 精神科神経科助教
敦賀 陽介(75期) 消化器外科学分野 I 特任助教
中村美智子(77期) 泌尿器科助教
秦 洋郎(78期) 皮膚科学分野助教
秋元 琢真(79期) 周産母子センター助教
松島 理明(80期) 神経内科助教
中井 正人(81期) 消化器内科特任助教
方波見謙一(82期) 救急科特任助教
田中 暢洋(82期) 麻酔科助教
小林健太郎(84期) 分子イメージング講座特任助教
早川 輝(88期) 法医学分野助教
岩野 弘幸(会員2) 循環器内科特任助教
加瀬 諭(会員2) 眼科助教
神田 敦宏(会員2) 眼科学分野特任講師
平成27年6月1日 清水 薫子(78期) 女性医師等就労支援室特任助教
<昇任>
平成27年1月1日 西原 広史(71期) 探索病理学講座特任教授(同講座特任准教授)
平成27年5月1日 賀古 勇輝(75期) 精神科神経科講師(精神科神経科助教)
平成27年6月1日 中川 伸(会員2) 精神医学分野准教授(精神科神経科講師)
<配置換>
平成27年4月1日 廣谷 真(会員2) 神経内科学分野助教(神経内科助教)

<教授就任挨拶>

札幌保健医療大学 看護学部看護学科



小林 清一 (50期)

平成27年4月1日付で、札幌保健医療大学看護学部看護学科教授・学部長を拝命致しました。私は昭和49年に北大医学部を卒業して第二内科に入局後、複数の国内外基礎系研究室を経て昭和56年北大免疫科学研究所の助手となり、自己免疫とアポトーシスの研究を行いました。平成8年北大医療技術短期大学の教授となり、以来定年までの19年間、医療専門職の人材育成と4年制化、大学院設置等に関わってまいりました。この度、平成25年度新設の私立大学にて、「人間力」を備えた看護師・保健師の育成に再び従事することとなりました。同窓会諸先生のご期待に添えますよう全力を尽くす所存です。何卒宜しくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

東京医科大学精神医学分野主任教授

東京医科大学病院メンタルヘルス科科长



井上 猛 (60期)

平成27年5月1日より精神医学分野准教授を辞し、東京医科大学精神医学分野主任教授、東京医科大学病院メンタルヘルス科科长に就任いたしました。北大医学部同窓では、漕艇部の先輩でもある水野文雄先生(43期)が以前東京医科大学微生物学教室の教授を務めていらっしゃいました。北大在任中は精神医学分野の小山名誉教授、久住教授はじめ多くの同窓の先生方に大変お世話になりました。北大医学部同窓の名を汚さないように、精神医学の発展への寄与と地域・社会に貢献できる人材の育成を目指し、教育・診療および研究に一層精励いたしたいと思っております。

北里大学医学部新世紀医療開発センター

先端医療領域開発部門 小児外科学分野



田中 潔 (60期)

平成27年1月1日付で、北里大学医学部新世紀医療開発センター先端医療領域開発部門小児外科学分野教授を拝命いたしました。私は、東京大学医学部小児外科学教室に入局し、関連小児外科施設での研修ののち、平成16年に北里大学外科学教室に赴任いたしました。新世紀医療開発センターは、将来の医学教育に資することを目的として、北里研究所創設100年を機に昨年設立されました。臨床教育の充実、後進の育成が求められています。小児外科の進歩に貢献できるよう微力ながら努力する所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

関西医科大学附属滝井病院皮膚科教授



清原 隆宏 (67期)

本年1月1日付で、上記を拝命しました。平成3年に卒業し、学生時代の野球部顧問部長であった大河原 章教授(現名誉教授)の皮膚科教室の門を叩きました。何かと未熟であった私に対し、節目に際して愛情を持った戒めや人生の道筋を説いていただいた恩師に今更ながら感謝しております。平成10年に福井大学(現)に移動し、平成26年度から関西医科大学に籍を移しておりました。当病院は来年度新築完成予定で、全体で約500床、皮膚科には9床割り当てられています。専門の皮膚病理および皮膚悪性腫瘍の臨床研究に今後も邁進していきたいと心新たにしております。

<同期会案内>

★第44期「獅子の会」卒業47周年記念会2015 in 旭川のお知らせ

日時：平成27年9月12日(土) 午後6時より
会場：〒070-0036 旭川市6条通9丁目45-1 旭川ランドホテル (電話：0166-24-2114)

詳細は出席予定者にご案内します(幹事：葛西、中村)。

★第71期卒業20周年記念同期会開催のお知らせ

日時：平成27年8月29日(土曜日) 18:00～
場所：ホテルニューオータニイン札幌

問合せ先：西原広史(北海道大学大学院医学研究科 探索病理学講座) hnishihara@med.hokudai.ac.jp
*札幌市内のホテルが混んでいる時期です。予約は早めをお願いします。

<連携と絆を探る神奈川フラテ会開催のお知らせ>

平成27年度神奈川フラテ会総会を開催しますのでご案内します。

昨年は国兼浩嗣(58)、谷口直之(43)両先生のご口演を新たに参加した北大学生2名と共に聴きその後参加者は楽しいひと時を過ごすことができました。

今年度は今年1月1日に北里大学教授になられた田中潔先生(60)と同じ大学の名誉教授の川上正也先生(29)にご口演をお願いしました。田中先生は一筋に小児外科学を研鑽されてきた方ですので最新の知見をお話いただけることでしょう。人生の達人の域にある川上先生は著書「心のアンチエイジング」を出

版されいままなお意気軒高に過ごされておられます。お二人のご口演は私たちにとって得ることが多く意義深いものになるでしょう。

また学生の他、新たに研修医の参加も予定されていますので新旧2世代にわたる参加者が一堂に会する会になります。今年度も楽しい会になると思いますのでお誘い合わせてのご出席をお待ちします。

世話人 仁保、武宮(43)、市川(62)、国兼(58)、田中、力石(60)、折館(64)、古屋(67)、前田(69)

記
演題(1) 小児外科あれこれ
講師 北里大学医学部新世紀医療開発センター先端医療開発部門 小児外科学教授 田中潔先生
演題(2) 心のアンチエイジング
講師 北里大学名誉教授 川上正也先生
日時 7月25日(土) 17:00～20:00
口演 17:00～18:20 総会・懇親会 18:30～20:00
会場 崎陽軒本店 横浜駅東口そば
Tel : 045-441-8880

会費 1万円(初めての方は別に入会金3千円を頂きます)
*神奈川フラテ会Hpにも案内を掲載します。
*現役学生と研修医の方は会費を頂けません。現役学生には交通費を差し上げます。
*神奈川フラテ会の方々には後日案内が郵送されますのでご覧下さい。
*出欠のお返事はFaxで仁保または市川にお願いします。
以上
Fax (仁保) 045-311-2692 (市川) 045-787-2740

＜東京フラテ会夏企画のご案内＞

レジナビ等に参加のため上京する北大医学部学生を歓迎する東京フラテ会の夏企画を、レジナビ開催前日の7月18日(土)に下記のとおり催します。多くの医学生が参加し、東京フラテ会幹事等との交流を深められるよう、医学部学生へのご案内をお願い申し上げます。

東京フラテ会 会長 松谷有希雄 (51期) [連絡先] 事務局 武蔵村山病院 鹿取正道 (67期) 042-566-3111 (代) e-mail mkatori@yamatokai.or.jp

記

日時：平成27年7月18日(土) 19時～
場所：ライオン銀座7丁目店 2階個室 (予定)
東京都中央区銀座7-9-20
03-3571-2590
(地下鉄銀座駅A3出口 徒歩5分)

ドクター総合補償制度について

同窓会では、会員のための「ドクター総合補償制度」を創設し、随時募集を行っています。

現在、本制度には500名近い会員の皆様が加入しており、大変ご好評をいただいています。

ドクター総合補償制度には「医師賠償責任保険(勤務医向け)」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので個人での契約に比べて割安な保険料で加入することができます。

ドクター総合補償制度につきましては、同窓会事務局にお問い合わせください。

ご寄付の報告

同窓会事業支援のため、次のとおりご寄付をいただきました。

- 平成27年2月6日 53期 鈴木道子様 金200,000円
 - 平成27年2月24日 35期 齋藤和雄様 金300,000円
 - 平成27年3月2日 56期 笠原正典様 金100,000円
- 以上、ご報告申し上げます。誠に有り難うございました。

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。

寄付者のご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感謝状を贈呈させていただきます。

ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。



平成27年度同窓会誌「写真・絵画」「文芸」原稿募集について

今年度は、同窓会誌発刊の年に当たっており、11月下旬刊行予定で作業を進めております。

つきましては、原稿を募集いたしますので、掲載をご希望の方は、右記の要領でご投稿くださいますよう、よろしく願いいたします。

- 1. 募集原稿について (1) 短歌、俳句、川柳、詩など (2) 写真、絵画、版画、書、漫画など (いずれもカラー掲載) (3) 論説、随筆、紀行文など (3,200字程度で横書き) 論説、随筆、紀行文等に写真等が添付されている場合、写真等は白黒印刷となります。写真等のカラー掲載

をご希望の場合、本文は「文芸」の白黒ページ、写真等は「写真・絵画等」のカラー用ページに分けて掲載することができます。ご希望の方は「カラー掲載希望」と書いてお送りください。

2. 締切日について 平成27年8月25日(火)必着でお送りください。原稿、写真等は可能でし

たらメールでお送りください。編集作業をスムーズに進めるため、ご協力くださいますよう、よろしく願いいたします。

<原稿送付先> 〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目 北海道大学医学部同窓会事務局 TEL&FAX:(011)706-5007 E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp

同窓会役員名簿

任期：平成27年4月1日～平成28年3月31日

役職	氏名	期	勤務先
会長	浅香 正博	48	北大大学院医学研究科 がん予防内科学講座 特任教授
副会長	佐久間一郎	55	社会医療法人社団 カレスサポロ 北光記念クリニック 所長
	吉岡 充弘	60	北大大学院医学研究科 神経薬理学分野 教授
会計理事	櫻木 範明	52	北大大学院医学研究科 生殖内分泌・腫瘍学分野 特任教授
編集理事	田中 伸哉	66	北大大学院医学研究科 腫瘍病理学分野 教授
理事	長瀬 清	40	北海道医師会 会長
	橋本 紘治	47	ドクターランド幕張 耳鼻咽喉科
	松谷有希雄	51	国立保健医療科学院 院長
	寺沢 浩一	54	北大大学院医学研究科 法医学分野 特任教授
	笠原 正典	56	北大大学院医学研究科長・医学部長 分子病理学分野 教授
	大場 淳一	58	市立旭川病院 副院長 胸部外科
	小笠原和宏	59	釧路労災病院 副院長 外科部長
監事	新藤 純理	64	市立釧路総合病院 泌尿器科 部長
	小山 司	49	医療法人重仁会 大谷地病院 臨床研究センター センター長
	桜田 教夫	専7新	医療法人社団 洞仁会 洞爺温泉病院

北海道医学会からお知らせ

○機関誌「北海道医学雑誌(毎年5月、11月発行)」の原稿募集

◆募集原稿

- ・「原著論文」「症例報告」「総説」「速報」「学位論文」「学位論文の要旨」「BAY(Best Articles of the Year)」「研究会抄録」「談話会抄録」等です。
- ・「教室だより」「海外だより」等、論文以外の投稿も歓迎します。

◆投稿資格

- ・投稿者は北海道医学会会員であることを原則とします。
- ・入会方法、投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。 北海道医学会事務局 電話 011-706-5007 E-mail: digakkai@med.hokudai.ac.jp

○「北海道医学会研究奨励賞」の公募

◆応募資格等

- ・応募資格は、応募の年に発行された「北海道医学雑誌」に掲載された論文著者とし、共著の場合は筆頭著者とします。なお、応募する年度の末日において満40歳未満の本会会員であり、応募する年度までの年会費を完納していることが条件です。
- ・対象となる論文は、「原著論文」「学位論文」「BAY」とします。

- ・毎年12月に公募し、応募者の中から選考します。詳細は北海道医学雑誌11月発行号でお知らせします。

◆授賞件数等

- ・医学の進歩に寄与すること顕著な研究であり、将来の発展を期待し得ると認められるものを、毎年3名以内とします。
- ・受賞者には賞状及び副賞3万円を授与し、北海道医学会総会の席上で表彰します。

フラテ祭2015 9月開催

フラテ祭2015を、9月26日(土)に開催いたします。

フラテ祭は、平素からご支援をいただいております関係各位と医学部の親睦をさらに深め、医学部の現状

を見ていただくことにより今後の抱負や課題を認識していただくための場として、2007年9月に第一回目を開催いたしました。

第九回目を迎える本年度も、北海

道大学ホームカミングデーと同日開催いたします。北大医学部の変化・革新をお伝えしつつ、肩肘張らない楽しい「祭」となるよう、準備を進めております。

詳細につきましては、同窓生の皆様方へは6月下旬頃改めてお送りするご招待状にて、お知らせいたしま

す。ふるってのご参加をお待ち申し上げます。

フラテ祭実行委員会事務局 TEL:(011)706-5012 FAX:(011)706-7855

日時：2015年9月26日(土) 午後～
場所：北海道大学医学部/フラテ会館

同窓会費について

○会費納入のお願い

会員の皆様には、同窓会費納入にご協力いただきありがとうございます。

同窓会の事業は会員の皆様の会費を原資として運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

○会費納入方法のお知らせ

次のいずれかにより納入してください。

1. 口座振替

・店頭へ行く手間が省けて便利です。また、会費の二重払い防止にもなります。

・希望する方は、同窓会事務局にお申し付けください。手続き用紙をお送りいたします。

2. コンビニ納付

・毎年6月の同窓会新聞に同封される払込票により、当年度分会費をお近くのコンビニで納入してください。

・会費未納額がある方には、同窓会新聞を郵送の都度払込票を同封いたします。

3. 銀行振込

・北洋銀行、北海道銀行の同窓会口座に振り込むことができます。

・各銀行に備え付けの振り込み用紙をご利用ください。

・手数料はご自身の負担となります。

・振り込み先銀行、口座番号は「コンビニ払込票」の裏面をご確認ください。

・**同姓同名の混乱を避けるため、氏名の前に、必ず卒業期を記入してください。**

○会費未納者にお知らせ

・過年度会費が2年を超える会員には、会員名簿及び同窓会誌をお送りしません。

・**該当する会員は毎年9月30日までに納入するようお願いいたします。**

・9月30日を過ぎますと会費納入確認の都合により、会員名簿(会誌)をお届けすることができませんのでご了承ください。

ださい。

○会費免除のお知らせ

会則により、卒業後55年を経過した会員の会費は、翌年度から免除となります。

35期は平成27年度から、36期は平成28年度の会費から免除となりますが、免除前に2年を超える未納会費がある方には、会員名簿及び会誌は送付いたしません。

新刊書紹介



「異郷へ 異郷から」
こばやし しんぶし
小林 博(28期)
アイワード
¥500

140ページ、41項目と13のコラムにまとめられた本書は、語り口が平易。読み進むにつれて、ときに切実な悲しみ、ときに喜びと楽しみなどを著者と共にすることになる。その内容に触れてみよう。

著者はあるとき、かつて李香蘭が唄った「蘇州夜曲」で知られる中国の蘇州を訪れる。「水の都」といえばベニスだが、蘇州のほうがこの言葉にぴったりという印象をいだく。運河による水運が住民の生活に溶け込み、白壁の建物や古い歴史の街並など、しっとりとした東洋の情緒があふれていたからだ。

これだけではしかし、ただの旅記だ。だが話はさらに、中国の都市・南京の「南京虐殺記念館」へとつながる。訪れたのは2008年、記念館が新装オープンしたばかりのころの冬。そこで見たのはおびただしい虐殺場面の写真の陳列。衝撃を受けながらも冷静に受け止め、著者は考えを「人間の本质論」へと深める。歴史の根底にひそむ人間存在の哀切さを洞察する目は、かつてアメリカと戦ったベトナム、あるいは自国民170万人を殺害した独裁者の国カンボジアを訪れて、さらに深まっていく。このあたりの叙述は、本書を読むに如くはない。

著者は、楽しいこともたくさん語っている。ハンガリーの首都ブダペストの美しい景観と人との出会い。ペートーベンのお墓発見物語。大国アメリカの底力を支える、小さな町の福祉ボランティアの紹介など、読むほ

どに楽しく、かつ考えさせられる。頒価500円の自費出版としたのは、著者の奥ゆかしさのゆえだろう。

(28期 方波見康雄)



「高齢透析患者治療とケアのための透析療法Q&A」
い いだ のぶとし
飯田 喜俊(28期)他編
医歯薬出版
¥3,240

昨年、日本の平均寿命は女性が86歳で世界一位を堅持し、男性は80歳に到達した。日本は超高齢社会を歩んでいる。それと並行して透析患者の平均年齢も67歳となり、正に透析医療も高齢者医療そのものとなった。しかし、透析医療において若年者と高齢者との間には臨床的に少々違いがある。それを説いた書物はあまり見当たらない。

慢性透析患者は日本の一般市民405人に一人の割合に増加して透析が身近な問題となった。「慢性腎臓病(CKD)」という言葉も一般の人に浸透して高齢者の関心を集め、透析医療は様変わりした。現役で活躍している若年患者と余生を送っている高齢患者の医療とは必然的に要求度は違ってくると思える。それを教えてくれるのが本書であり、臨床現場でのその違いを解説している。ベッドサイドで良く遭遇する問題が79の質問形式にまとめられ、その回答の末尾に「アドバイス」として高齢者の抱える微妙な特殊性に触れており、透析室の医療スタッフに共通する悩みにも答えてくれている。明日からの透析医療のために施設に一冊備えておきたい書である。

本書は大阪で活躍し、我が国の透析医療者のまとめ役の一人である飯田先生の編集したものである。先生はオーケストラになぞらえると楽団の指揮者・マエストロ的存在であり、飯田先生の執筆活動はまだまだ続きそうである。

(41期 上田峻弘)



「がんはどこまで防げるのか」
あさ か まさひろ
浅香 正博(48期)
創英社(三省堂書店)
¥1,028

「タバコががんの原因になるなんて言うようでは病理学者とはいえない!」「がんの予防を口にするような者はがん研究者とはいえない」と大先輩からいわれたことがありました。いまから50年も前の話です。

いまはどうでしょうか。「タバコががんの原因でない」とか「がん予防はナンセンス」という人はいないでしょう。時代は大きく変わりました。

本書では内科学の浅香正博先生が一般市民向けに、がんにならない予防法を、大腸がん、食道がん、乳がん、前立腺がん、肺がん、胃がん、子宮頸がん、肝細胞がんについてわかり易く具体的に解説しています。学術的な難しい話も一般市民に還元されてこそという著者の真の意図が活かされています。「浅香哲学」が生き生きと述べられているように思います。

一方では厳しいコメントも書かれています。「がん予防そのものがつかみどころのないものという印象が拭えない。だからすぐ検診の方向へ行ってしまう。それがすべて悪いわけではないが、がん予防の真価が軽視され、飛び越して二次予防へ直結されるのはいかがなものか」。

著者はいま流行になってきた「がん予防」に迎合するようなことには自らに厳しい目を向けています。がん予防の効果として実証的に説明できるものはタバコと感染症の2つだけ。その他の予防法や予防対策については憶測、推定を含め、必ずしも確実性を伴うものではないという指摘も忘れません。ムードに引きずられ、自制を忘れることがないように、がん予防を客観的に眺めようとする厳しい姿勢の一端も伺えます。

がん予防なるものが学問として定着し始めたのは1990年代からです。いろいろ誤解と中傷を受けながらもいま

ようやくここまで辿り着きました。

本書は同窓のみなさん方から広く一般市民の方々へ是非お勧めしていただきたいと思えます。

(28期 小林 博)



「若手研究者のための学会発表講座・論文の書き方講座」
あさ か まさひろ
浅香 正博(48期)
メディカルレビュー社
¥3,240

本書は極めてユニークな学会発表、論文作成の指南書である。本書の監修者である浅香正博先生がその序文で「ともかくいろいろ考えるより本書を購入し熟読することから始めてください」と書かれているが正にその通りで、既に類似の入門書、手引書を持っている人も、まずは読んでいただきたい。読み始めから最終項まで強烈な「Impact factor」の塊であると言って差し支えない。

本書は、「THE GI FOREFRONT」という消化器系の雑誌に2005年から2014年まで掲載された内容を一冊にまとめたものである。書評子は消化器が専門ではないため面識のない先生もあるが、消化器分野の当代第一人者の先生方によるリレー講座である。経験豊富な12名の執筆陣が基礎、臨床、内科、外科、論文作成者、査読者等々、様々な立場から学会発表、論文作成のイロハから裏技まで惜しげもなく披露してくれている。発表には当然、基本原則やルールがある。しかし、そこは人間が行うことであり個性も出る。自分に合わないやり方もある。そこを本書は個性豊かな先生方が種々の方法や考え方を披露してくれている。その中でストーン、と落ちるところを誰もが何か所も発見できるだろう。

これから学会発表や論文作成を行う、あるいは経験の少ない若手研究者は(本当はその指導者にも)まず一読し、その上で、更に熟読して執筆陣が伝授する極意を習得していただきたい。

(61期 佐藤典宏)



せいあむげん
「井蛙無限」
せのおきょういち
妹尾 恭一(48期)
新潮社図書編集室
¥1,728

「自分の一生に忘れ物はないか、何だったか」を書き綴った、還暦を過ぎた開業医の現代版「方丈記」である。60歳過ぎると社会的立場が変化することが多いが、医師もまた今までの人生や残りの人生を見直す時期となるは同じである。

思い出すままに記録した日付は2010年6月から2014年4月まで、文章の順序は必ずしも日付通りにはなっていないが、著書の前半と後半では、筆者の気分の違いを感じる。前半は何らかのきっかけがあったのか、死や生きることの意味を問いつける内容が続く。鴨長明や兼好法師の言葉を引用しながら、ひたすら自分の状況に足掻いているようだ。しかし後半は社会に目を向け多様な意見を述べ、筆者は次第に生気を取り戻している。

「井の中の蛙は世界に籠って世間世界が見えない。そこには心という内面に密着して、無限に近い暗闇があり、ここに人の思想の進化や、内省を深める一面があり、一概に愚行なりと唾棄することはできない。」と、現代の人々が忘れて「考える」ことを気付かせてくれる。

また、筆者が長年かかわってきた徳洲会とのエピソードも興味深かった。そこには日本の医療や制度の現実が語られている。徳田虎雄氏も筆者も、医療に情熱をもって人生を歩んできたのだが、一人は社会通念を無視し、突き進み自ら傷つき、一人は静かに世の中から距離を置いた。

この書は、団塊の人々だけではなく多くの日本人の生き方の道標となる。

(55期 山科賢児)



「心エコーでコロボ」
主治医と検査者の相互理解を深める心エコー奥義
みかみたいせい
三神 大世(52期)監修、
やまだ さとし
山田 聡(66期)他編
医学書院 ¥5,400

タイトルを拝見して、「こんな本が欲しかった!」と思わず膝を打った。

心エコー検査なくして循環器診療は成り立たない。主治医は検査に期待することを検査者へ伝え、検査者はそれに的確に応えるとともに、主治医へ知らせるべきプラスアルファをレポートに盛り込むことで、質の高い心エコー検査が完結する。本書は「主治医と検査者の間の相互理解を深める」ことに主眼を置いた類のない実践書といえる。

総論では心エコー検査に関する基本が述べられている。初学者を対象としながら、日常診療には十分な内容だ。各論は検査目的別に構成され、主治医から検査室へ伝えること、そして検査者から主治医へどのように伝えるかが解説されている。ここに「心エコーの奥義」が鏤められている。検査に臨む際の要点を手早く確認するのに便利で、エコーラボの机上に常備したい実用的な一冊に仕上がっている。

本書の大きな特徴は「made in Hokkaido」。執筆陣は皆「道民」で、同窓会員諸氏にはきっと馴染みの方もおられよう。私も、監修の三神大世先生(52期)、編集の中心を担う山田聡先生(66期)に直接教を乞う機会に恵まれたひとりだ。

人と人とのコミュニケーションが希薄になりつつある中、“エコーでコロボ”を謳う本書が、医療現場における対話の大切さを見つめなおす糸口になると想うのは大袈裟であろうか。“デキる主治医”と“頼れる検査者”を目指す諸兄姉に、本書を是非お勧めしたい。

(72期 今川正吾)



「やさしい腫瘍学」
こばやし まさのぶ
小林 正伸(54期)著
南江堂
¥3,456

これまで腫瘍学の教科書は主として基礎の研究者の立場から書かれたものが多い。そのため学問的レベルは高くても実際の臨床とはかけ離れている可能性が指摘されてきた。本書は、基礎、臨床の記載のバランスが見事に調和し、学問的にも最新の知識が満載され、わかりやすいのみならず腫瘍学を実際に臨床応用するための方法論が詳細に述べられている。がんとは何かの項では腫瘍、悪性腫瘍、がんについてそれぞれの本質が述べられているが、説得性に富んでおり、読者はこのあたりから本書に没入していくと思われる。がんは何年かけて大きくなるのかは腫瘍学の核心というべきところであるが、最新の情報である隣がんの進展の経過を入れて考察していることで説得性を増している。

本書の真骨頂は臨床についての記載である。なぜがんで亡くなるのかという腫瘍学の原点について転移を主体に最新の知識を余すことなく述べてくれている。わかりやすくポイントをしつ

かり押さえて記載されているが、これは小林先生が臨床の医師であったことの証しでもある。彼の専門のがんの化学療法については詳述されており、効果と限界そして重要な副作用について必要かつ十分な知識を得ることができる。

最後の章でがんの予防について述べられているが、すべて一次予防のみの記載である。一次予防を行うためには原因が明らかにされていなければならない。わが国のがん対策の遅れの最も大きな原因は、がんの二次予防のみに大きな力が入れていることである。本書ではがん予防の章に二次予防である検診については全く記載されていない。著者の優れた見識であろう。

(48期 浅香正博)

北海道医学会事務局職員の紹介



7年間に亘り、医学会の仕事をして頂いた霞内みゆきさんが3月末に退職されました。

新しく4月から福島三智子さんが仕事を引き継がれております。福島さんは、プリザーブドフラワーの教授ディプロマと世界のお茶マイスターを取得している、お花とお茶大好きさんです。大変明るく、親切に接してくれますので、北海道医学雑誌への投稿等事務局の方へどしどしお寄せ下さいませ。お待ちしております。

ご逝去者

新聞150号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
平成26年			1月29日	小野 功一	40
5月24日	今村 孝	専6新	1月31日	上谷 恭一郎	43
5月29日	猪俣 長典	専3	2月8日	佐久間 功	専7旧
9月29日	安田 和秀	29	2月11日	小岩 宏	35
10月7日	瀬戸山 淳夫	専7新	2月14日	洞田 淳一郎	29
10月21日	大井 康喜	47	2月23日	泉 淳	専6新
11月21日	森田 昌功	24	3月12日	鈴木 邦治	32
12月2日	多田 茂	専4	3月17日	大久保 進	23
12月3日	白石 俊之	38	3月19日	笠嶋 治夫	専4
12月13日	山田 正	23	3月20日	大本 勤	専7旧
12月21日	石塚 昇	31	4月6日	新井田 光路	専6旧
12月25日	江良 捷	樺太	4月20日	岩崎 寛治	38
平成27年			5月13日	坂井 英一	32
1月9日	南原 康二	40	5月15日	長谷川 正義	27
1月10日	宇部 浩	24	5月17日	奥村 利昭	28
1月19日	四枚田 至	46	5月22日	荻野 利彦	47
1月24日	山本 善蔵	22			

一面の写真説明

「保健科学研究院リニューアル」
保健科学研究院 副研究院長

でんだ けんぞう
傳田 健三(57期)

編集後記

新年度を迎え北大キャンパス内には新生の活気が満ちあふれています。この雰囲気は私が北大に入学した30年以上前と同じであり、何ら変わりはないように感じます。昨今国際化推進のため9月入学案が提唱されておりますが、この晴れやかな感覚は春でないと感じることができないもののような気

写真は2014年1月に新築された保健科学研究院研究棟 (E棟) である。西側、薬学部から撮影したものである。左側に一部写っている棟は、銀杏並木の13条通りに面している改修されたD棟である。

がします。さて、今年度はこの春新入学の97期生と卒業の91期生、あわせて約200名もの同窓会員を迎えることとなります。本号では受賞に関する記事がたくさん掲載されています。このような先達の嬉しいお知らせは、きっと同窓会員のよい励みとなり、なおかつお手本となることでしょう。

(67期 矢部一郎)

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。
<http://www.med.hokudai.ac.jp/alum-w/news/index.htm>
ご意見等ございましたら、事務局までご連絡くださいますよう、お願いいたします。

印刷所 大日本印刷(株) 〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号
代表 (011) 750-2205